

資料 4

令和 5 年（2023 年）3 月 27 日
第 7 回川越市介護保険事業計画等審議会

川越市高齢者等実態調査について

(1)実施状況について

調査名	対象者	実施方法	調査時期	対象者数 有効回収数 有効回収率	集計結果
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上で要介護認定を受けていない人	郵送配布 郵送回収または オンライン回答	令和4年12月8日 ～令和4年12月26日	8,624人 5,373人 内訳:郵送4,955人 オンライン418人 62.3%(前回 62.3%)	参考資料1
保健・福祉等実態調査	40～64歳で要支援・要介護認定を受けていない人	郵送配布 郵送回収または オンライン回答	令和4年12月8日 ～令和4年12月26日	2,100人 862人 内訳:郵送544人 オンライン318人 41.0%(前回 35.8%)	参考資料2
保健・福祉等実態調査 (介護保険認定者)	40歳以上で要支援・要介護認定を受けている人	郵送配布 郵送回収または オンライン回答	令和4年12月8日 ～令和4年12月26日	2,100人 1,035人 内訳:郵送930人 オンライン105人 49.3%(前回 54.8%)	参考資料3
在宅介護実態調査	在宅で生活をしている要介護(要支援)認定を受けている者のうち、更新申請又は区分変更申請に伴う認定調査	認定調査員による聞き取り	令和4年6月20日 ～令和5年2月10日	目標600人 602人 内訳:更新申請 332名 区分変更申請 270名	参考資料5
介護サービス事業所実態調査等 (介護人材実態調査)	川越市内の指定介護保険サービス事業所(各予防サービス・居宅介護支援事業所・福祉用具貸与・特定福祉用具販売を除く)	郵送配布 オンライン回答	令和4年7月1日 ～令和4年7月31日	301事業所(174人) 195事業所 64.8%(前回 51.0%)	
在宅生活改善調査	川越市内の指定居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)	郵送配布 オンライン回答	令和4年7月1日 ～令和4年7月31日	82事業所 55事業所(回答数:147ケース) 67.1%(前回 69.5%)	
居宅介護支援事業所実態調査	川越市内の指定居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)	郵送配布 オンライン回答	令和4年7月1日 ～令和4年7月31日	82事業所 63事業所 76.8%(前回 73.7%)	

オンライン回答の導入について

- ▶ 回収率の向上を目的とし、オンライン回答を導入した。
- ▶ 介護保険サービス事業所への調査においては、回収率が向上しており、一定の成果があったと考える。
- ▶ 市民を対象とした調査においては、40～64歳を対象とした保健・福祉等実態調査(以下、「40～64歳調査」という)では、前回より回収率が5.2ポイント向上しており、一定の成果があった。
しかしながら、65歳以上を対象とした介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(以下、「65歳以上調査」という)や要支援・要介護認定者を対象とした保健・福祉等実態調査(介護保険認定者)(以下、「認定者調査」という)においては、オンライン回答者の割合は低かった。
- ▶ オンライン回答に関する案内文には、QRコード及びURLしか掲載しておらず、パソコンを用いて回答する場合、URLを手入力してもらうことになった。そのため、市民の方から、「回答ページに入れない」「URLが正しいか確認したい」などの問い合わせを多く受けた。今回、パソコンを用いて回答する場合の配慮に欠けていた部分があり、次回は検索ワードからアンケート回答フォームに入れるなどスムーズに回答してもらえるよう工夫が必要と考える。

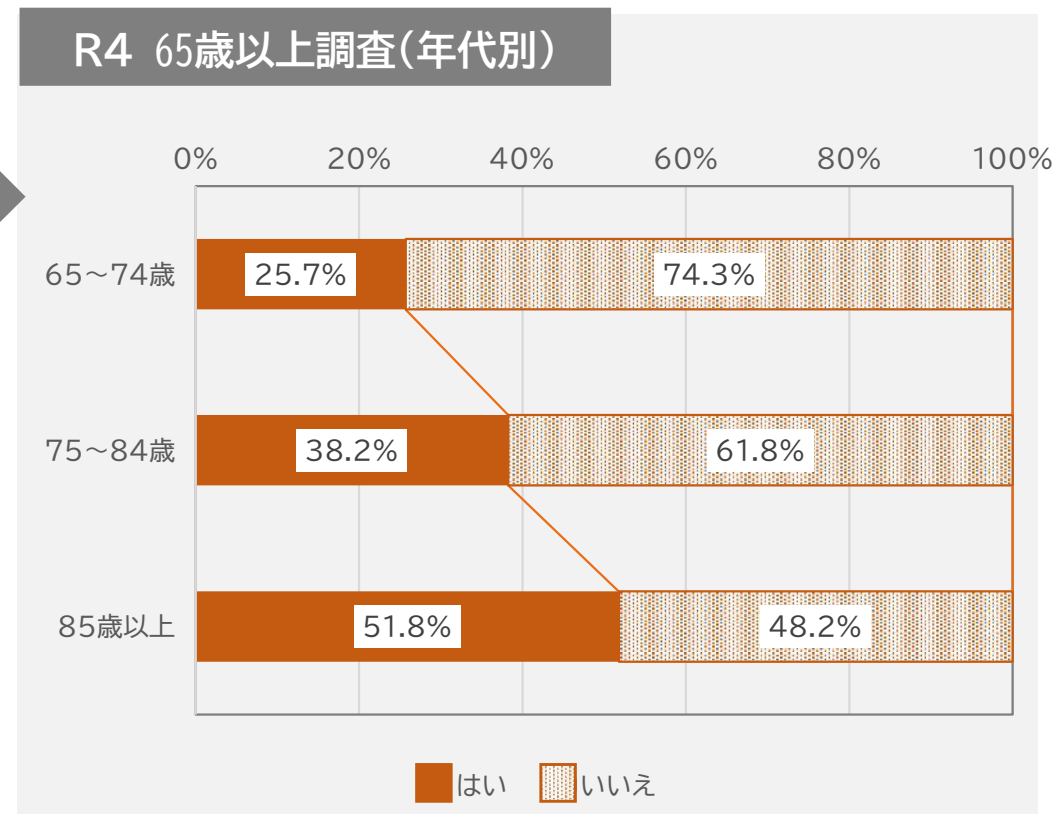
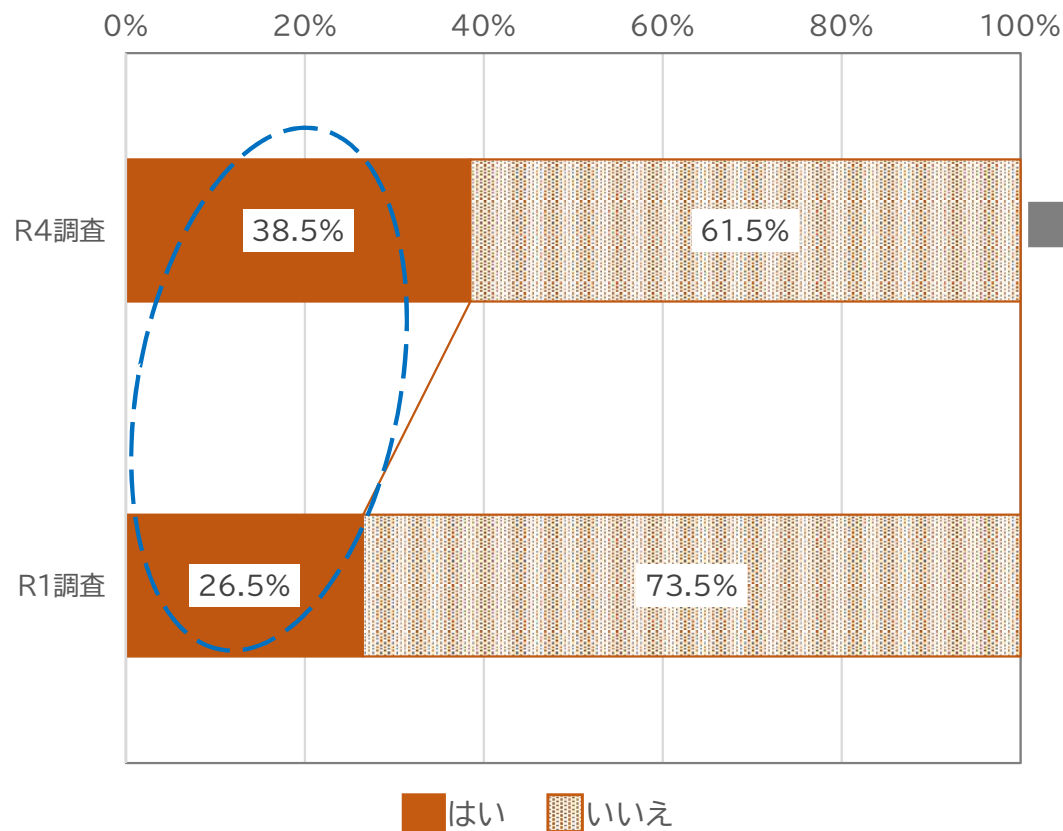
(2) 40～64歳調査・65歳以上調査・認定者調査における 調査結果の抽出

- 前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目
- 市が独自で設定した項目

■前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目

①外出を控えている人の割合及び外出を控える理由

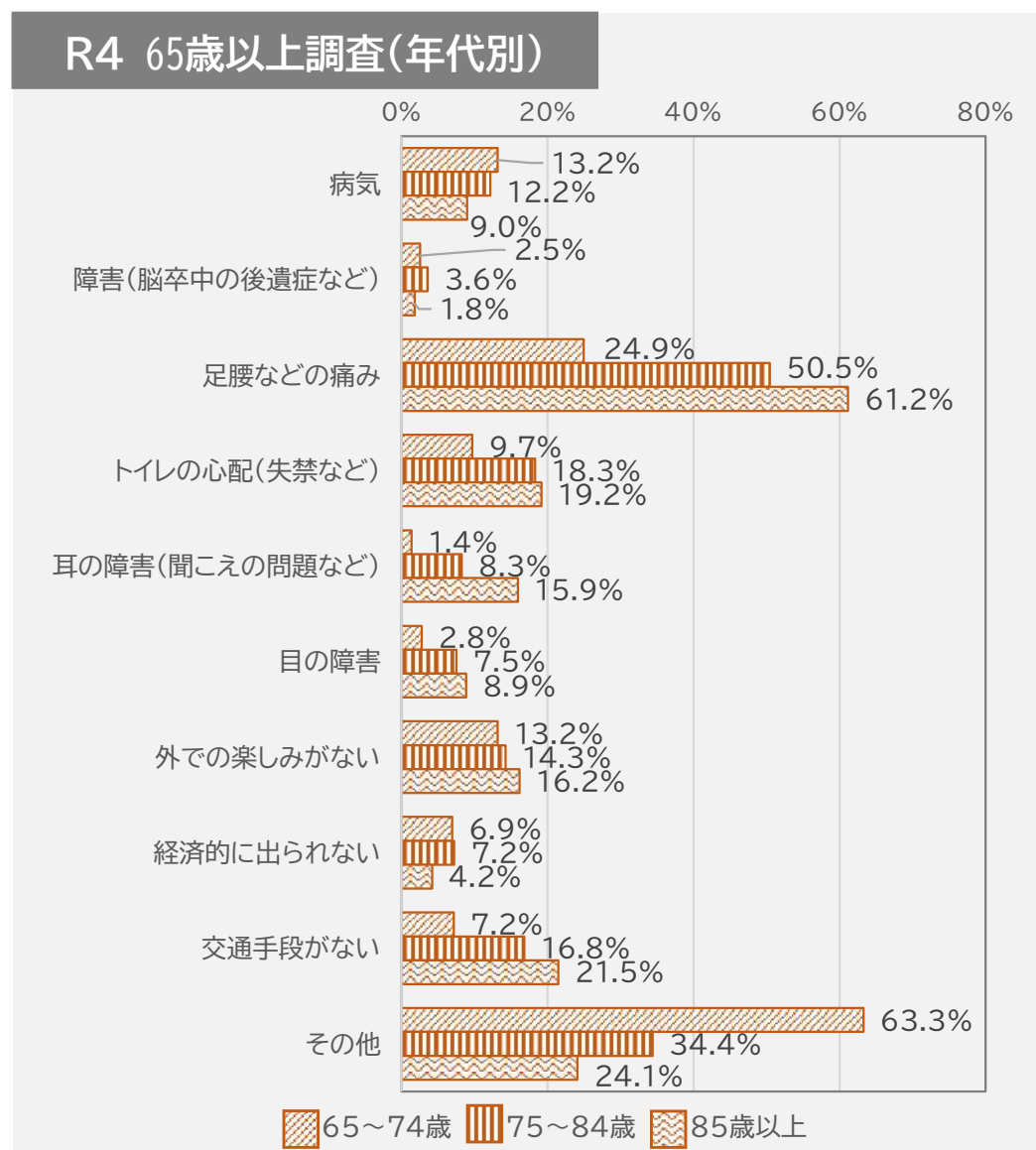
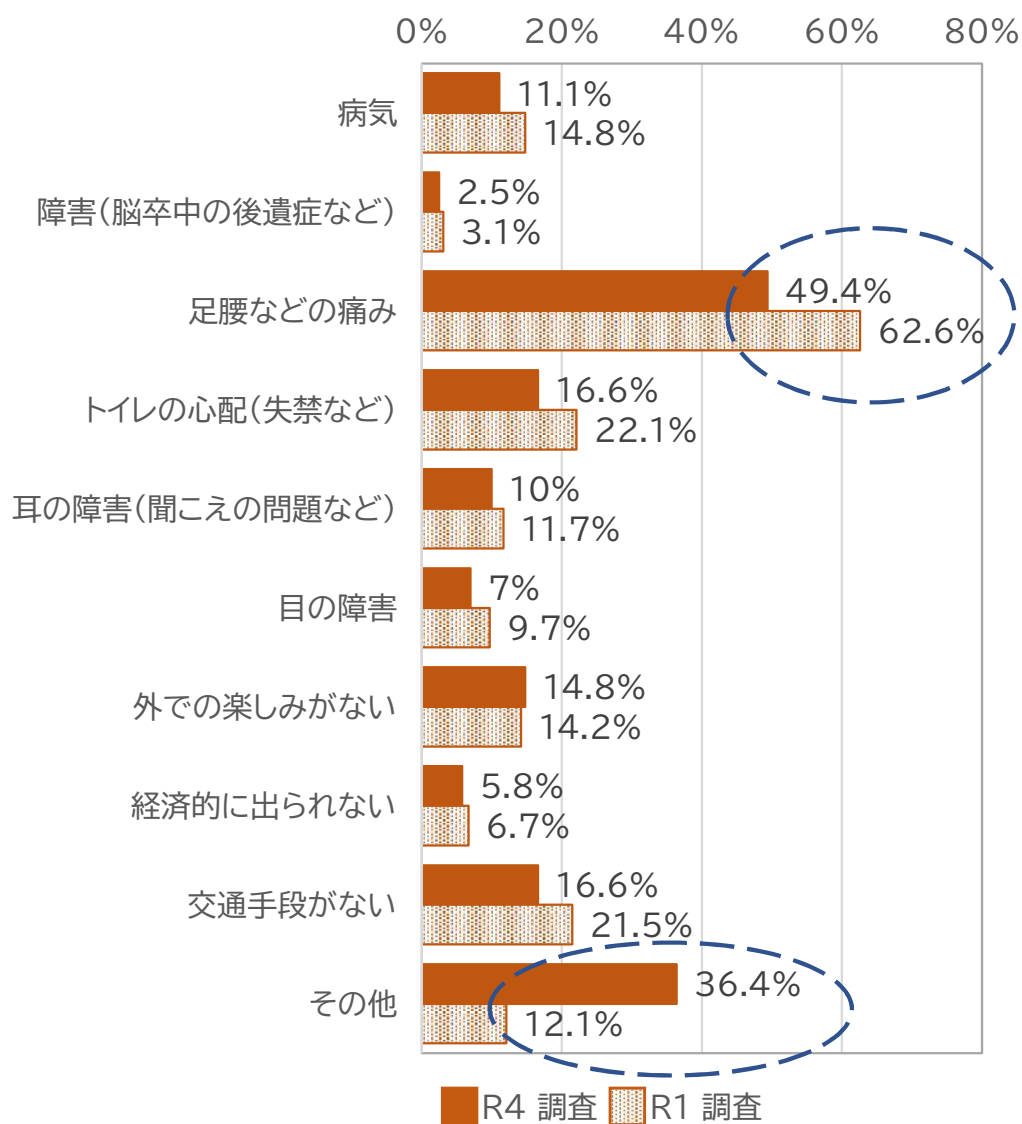
65歳以上調査において、外出を控えている人の割合が増加している。



■前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目

①外出を控えている人の割合及び外出を控える理由

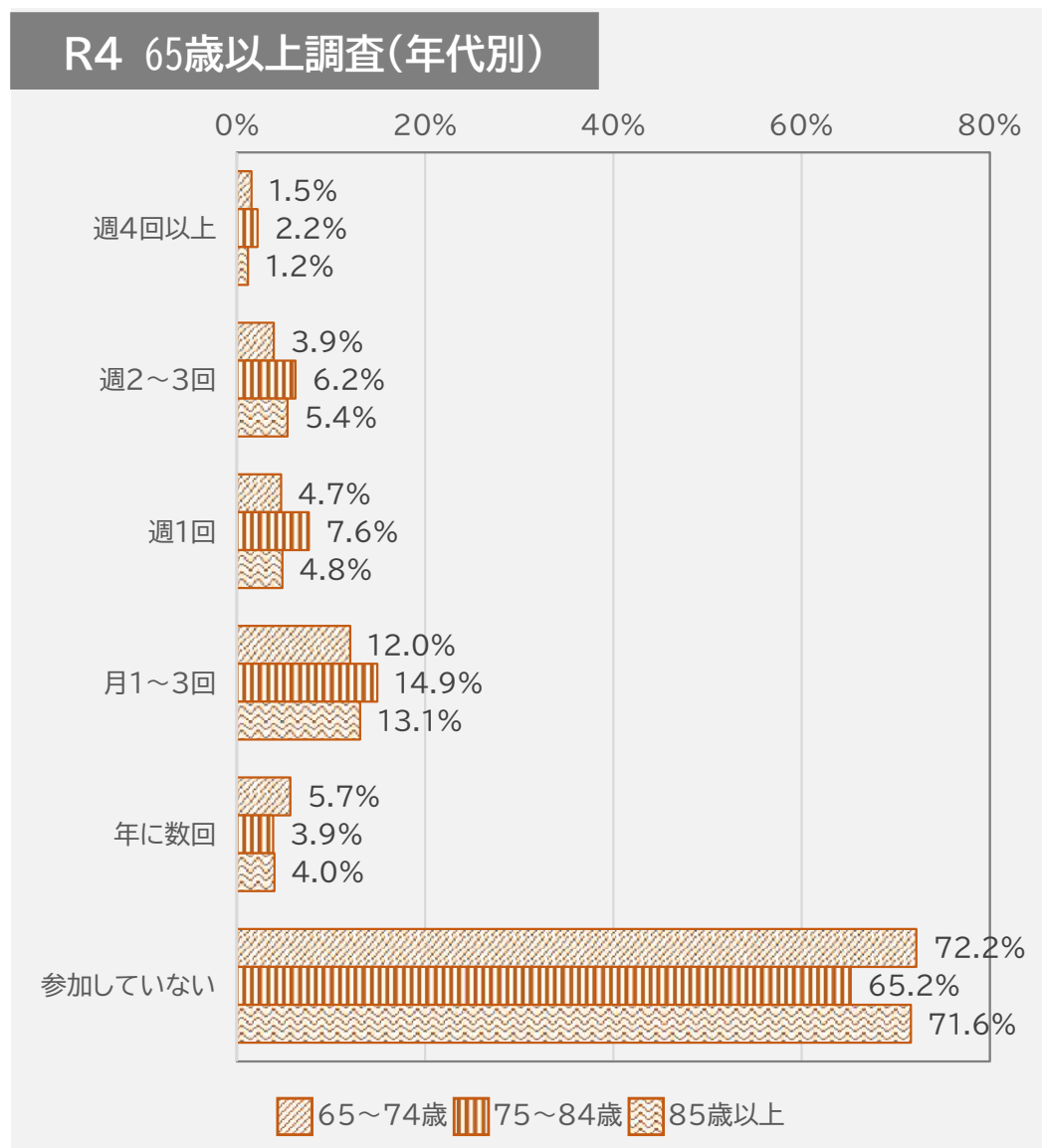
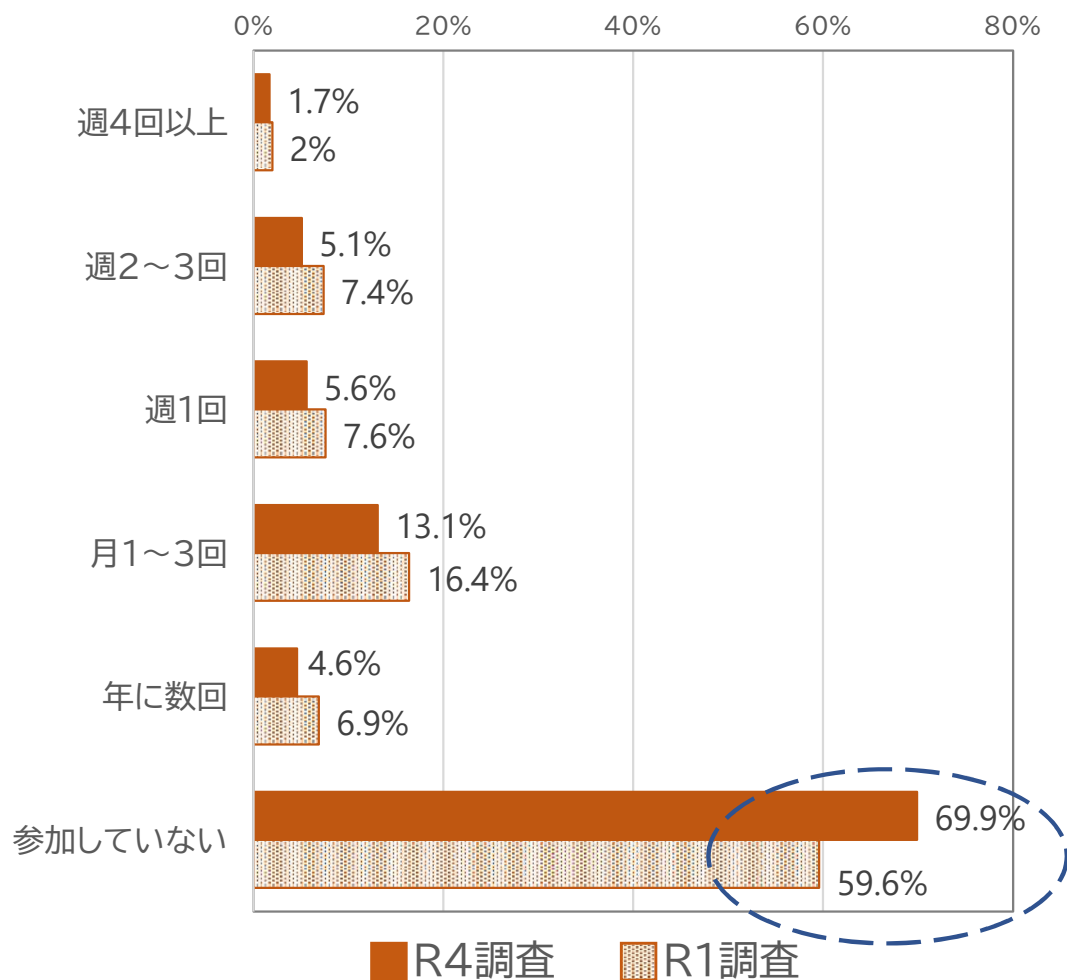
65歳以上調査において、「足腰などの痛み」が減少し、「その他」が大幅に増加している。
また、「その他」と回答した人の7割強が「新型コロナウイルス感染症」と回答している。



■前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目

②地域での活動について(趣味関係のグループ活動)

65歳以上調査において、趣味関係のグループ活動に「参加していない」と答えた人が、10.3ポイント増加した。

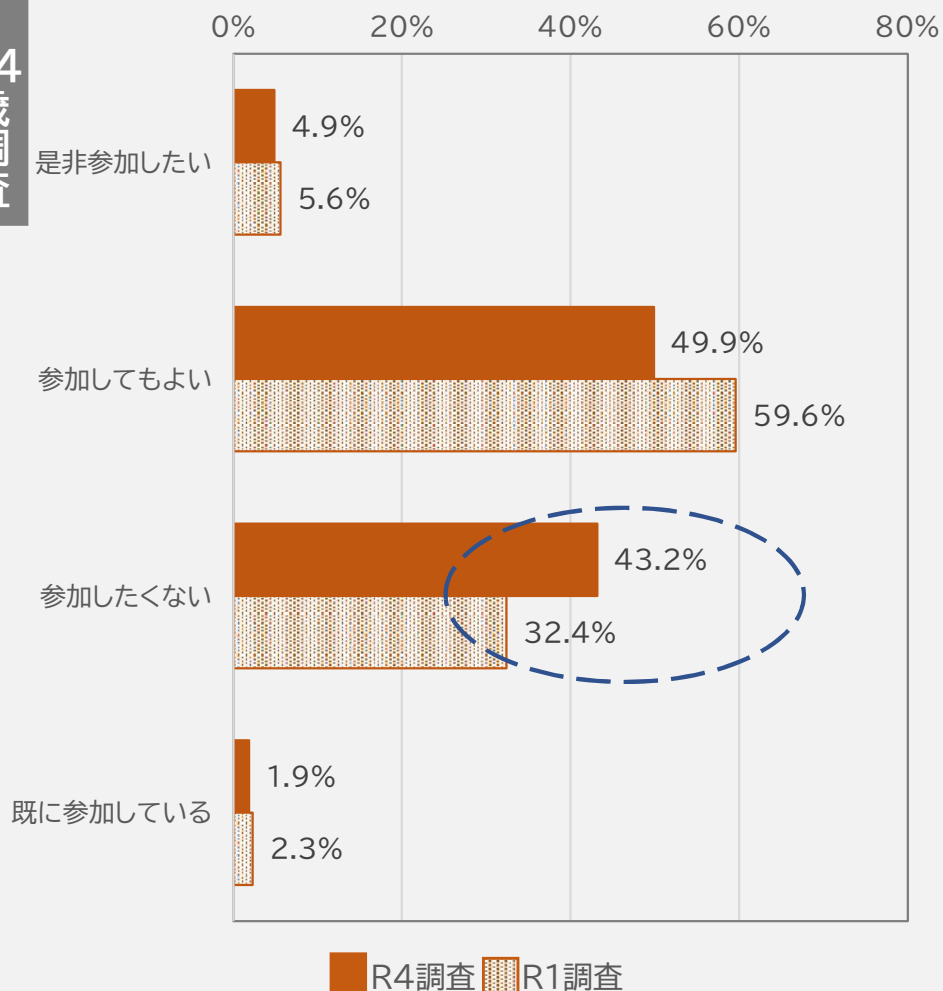


■前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目

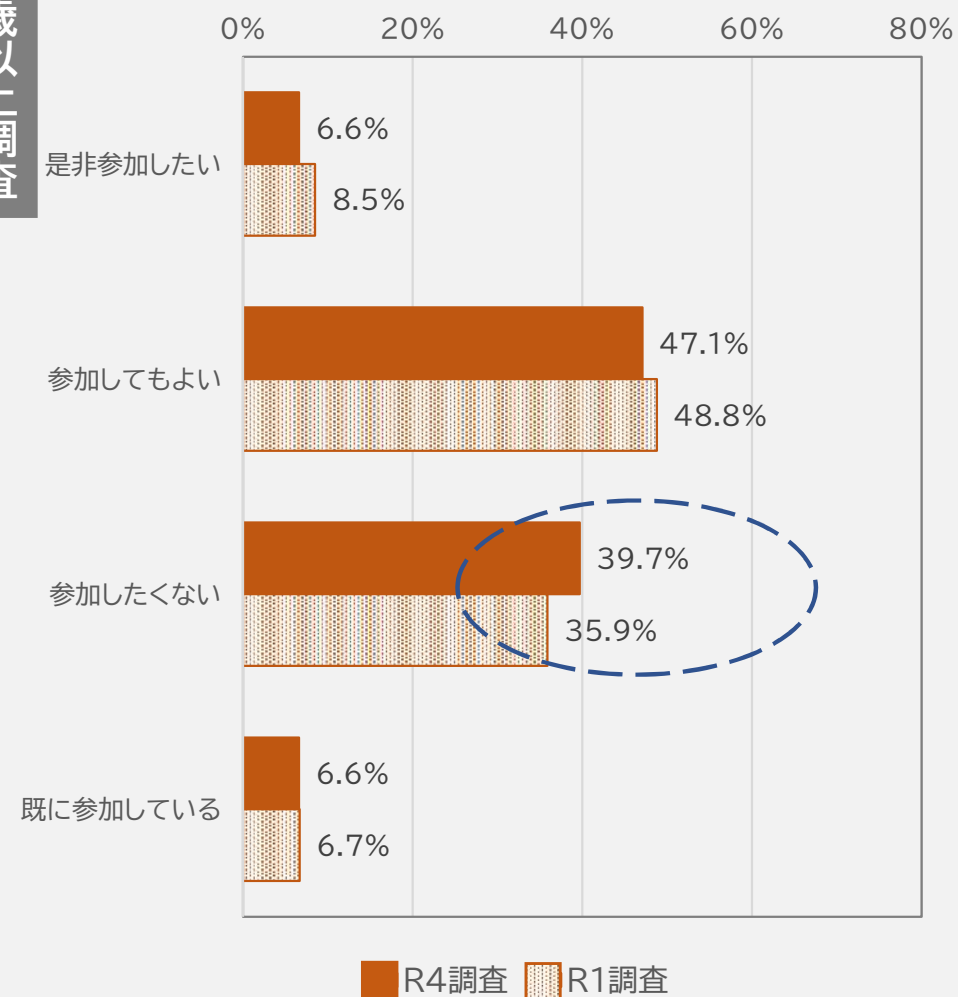
②地域での活動について（地域住民有志による活動）

40～64歳調査において、地域住民有志による活動への参加への意向について「参加したくない」と答えた方が、10.8ポイント増えた。65歳以上調査においても、わずかに増加した。

40
～
64
歳調査



65
歳以上
調査

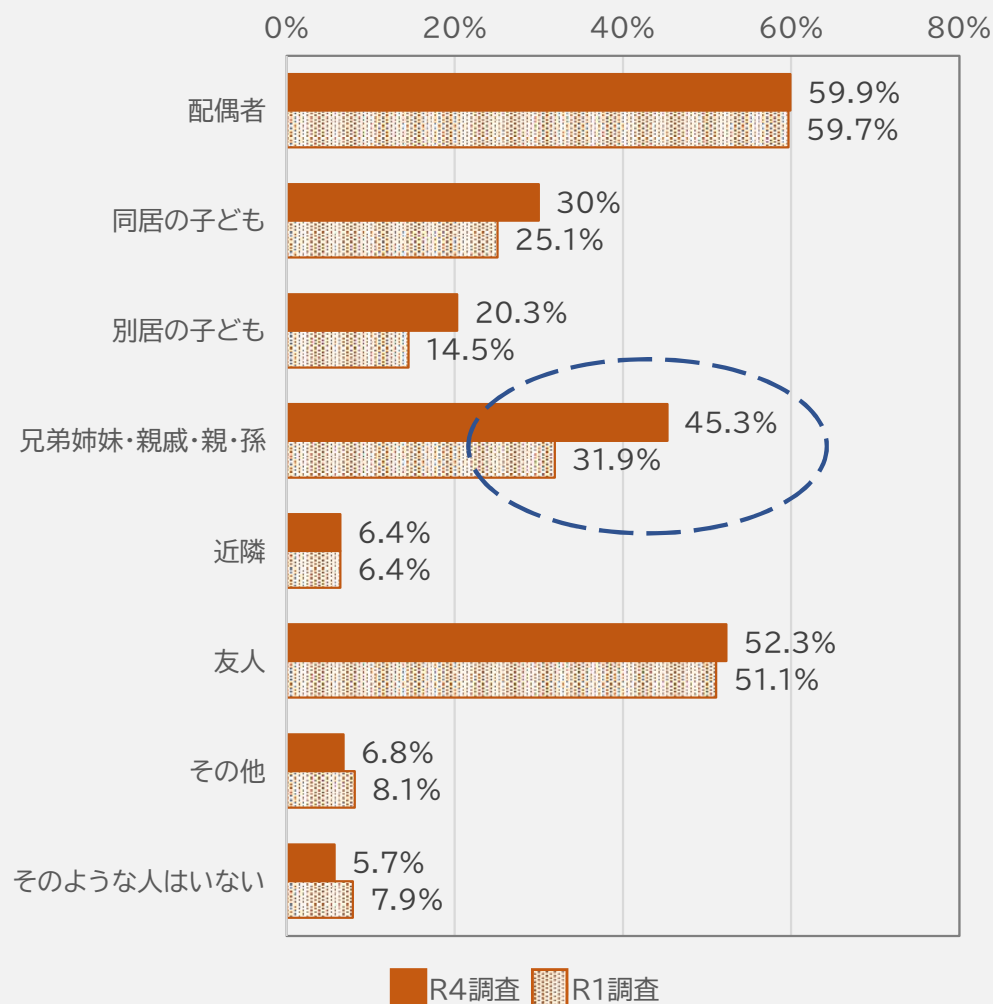


■前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目

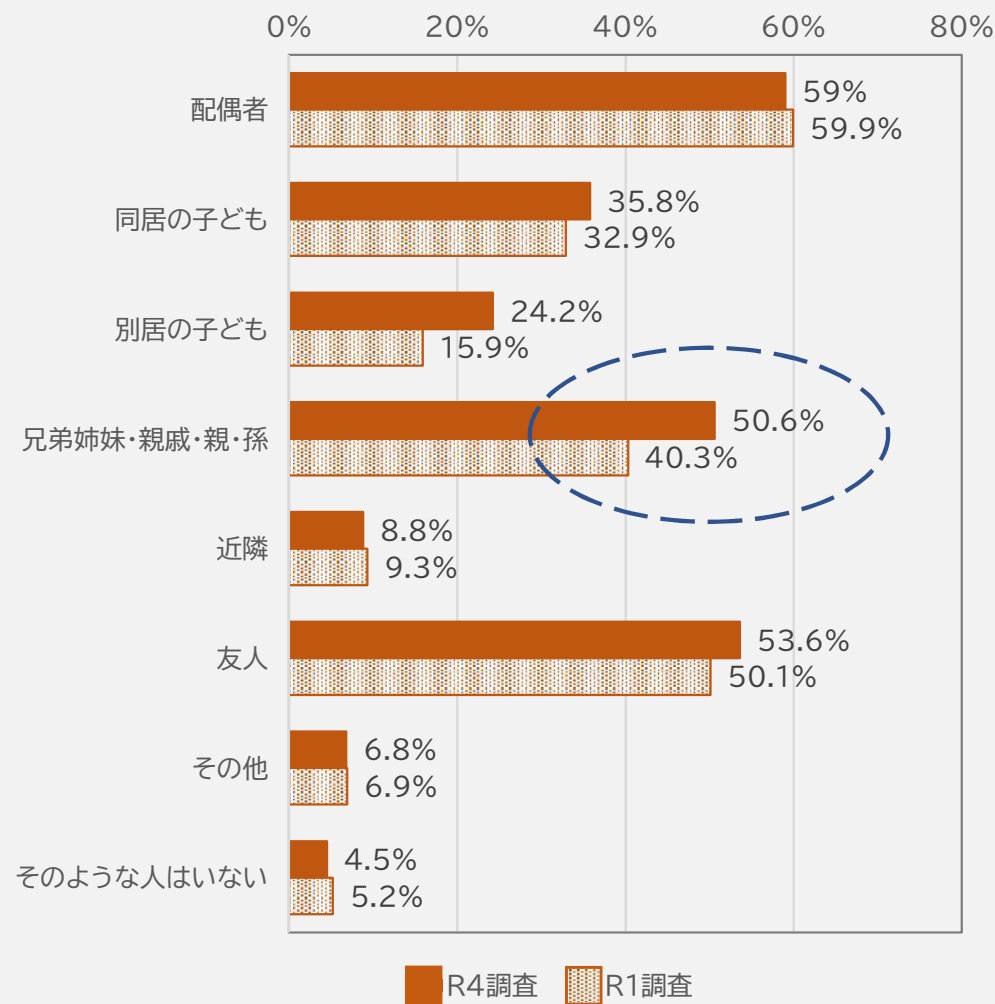
③たすけあいについて

40～64歳調査において、心配ごとや愚痴を聞いてもらったり、聞いてあげる人として「兄弟姉妹・親戚・親・孫」を答えた人が増加した。

心配事や愚痴を聞いてくれる人



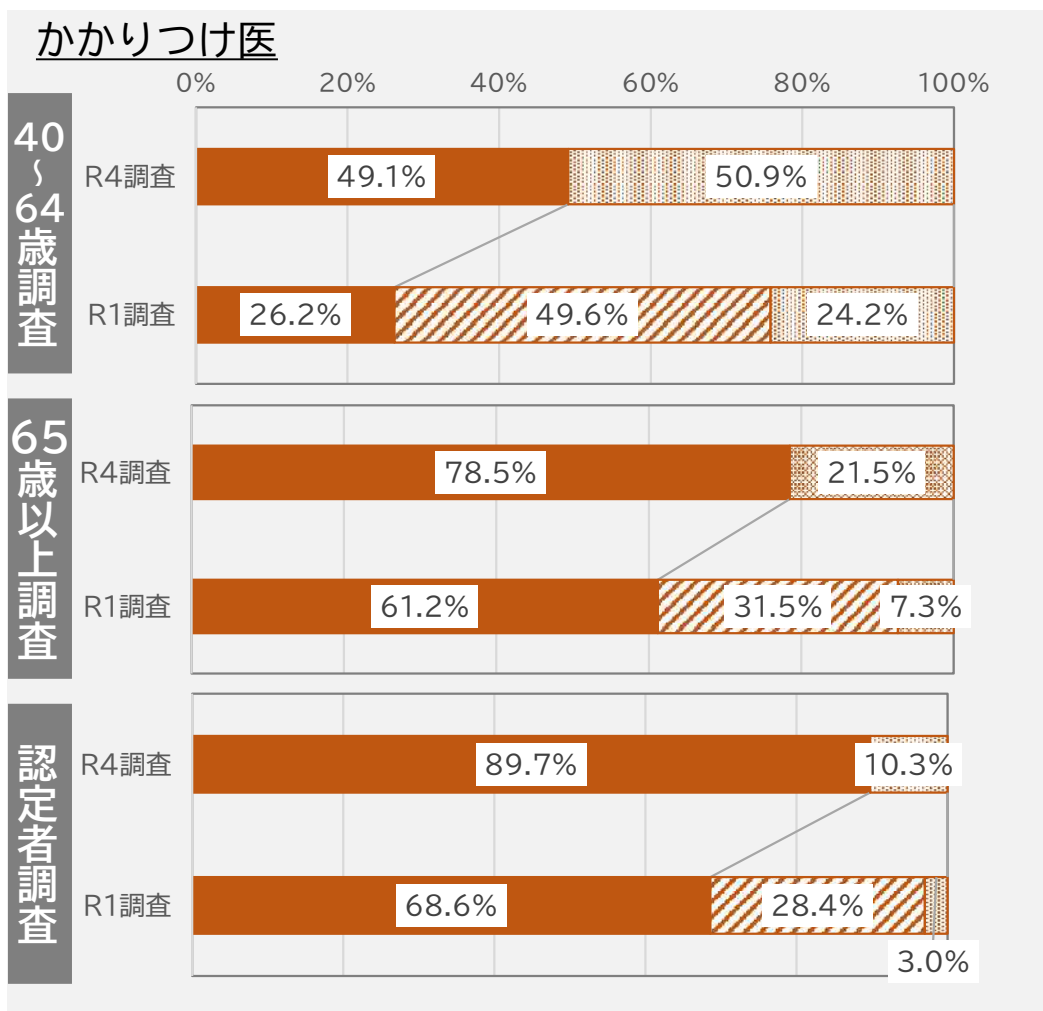
心配事や愚痴を聞いてあげる人



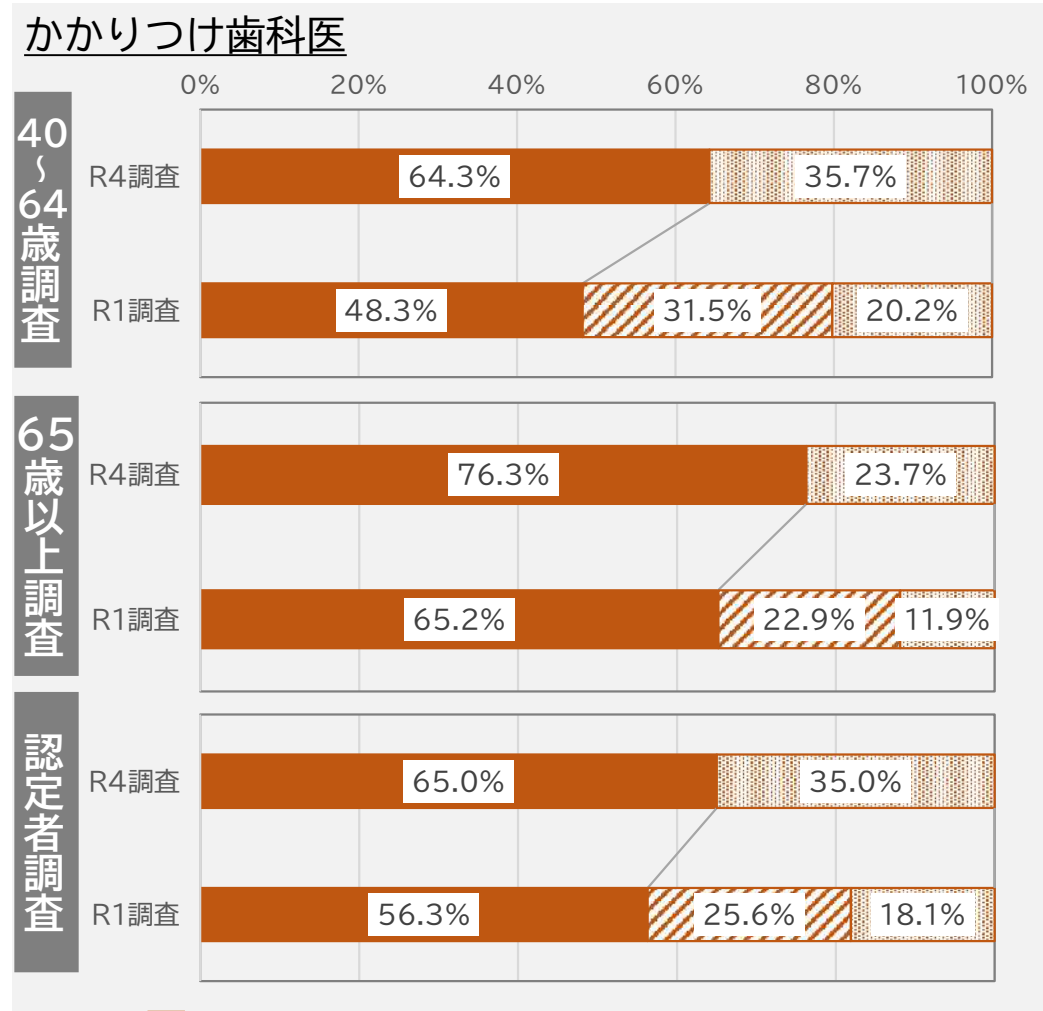
■前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目

④在宅医療について

40～64歳調査・65歳以上調査・認定者調査のすべての調査において、かかりつけ医及びかかりつけ歯科医が「いる」と答えた人が、増加している。



- いる
- かかりつけ医はいないが、行く医療機関はだいたい決まっている
- いない

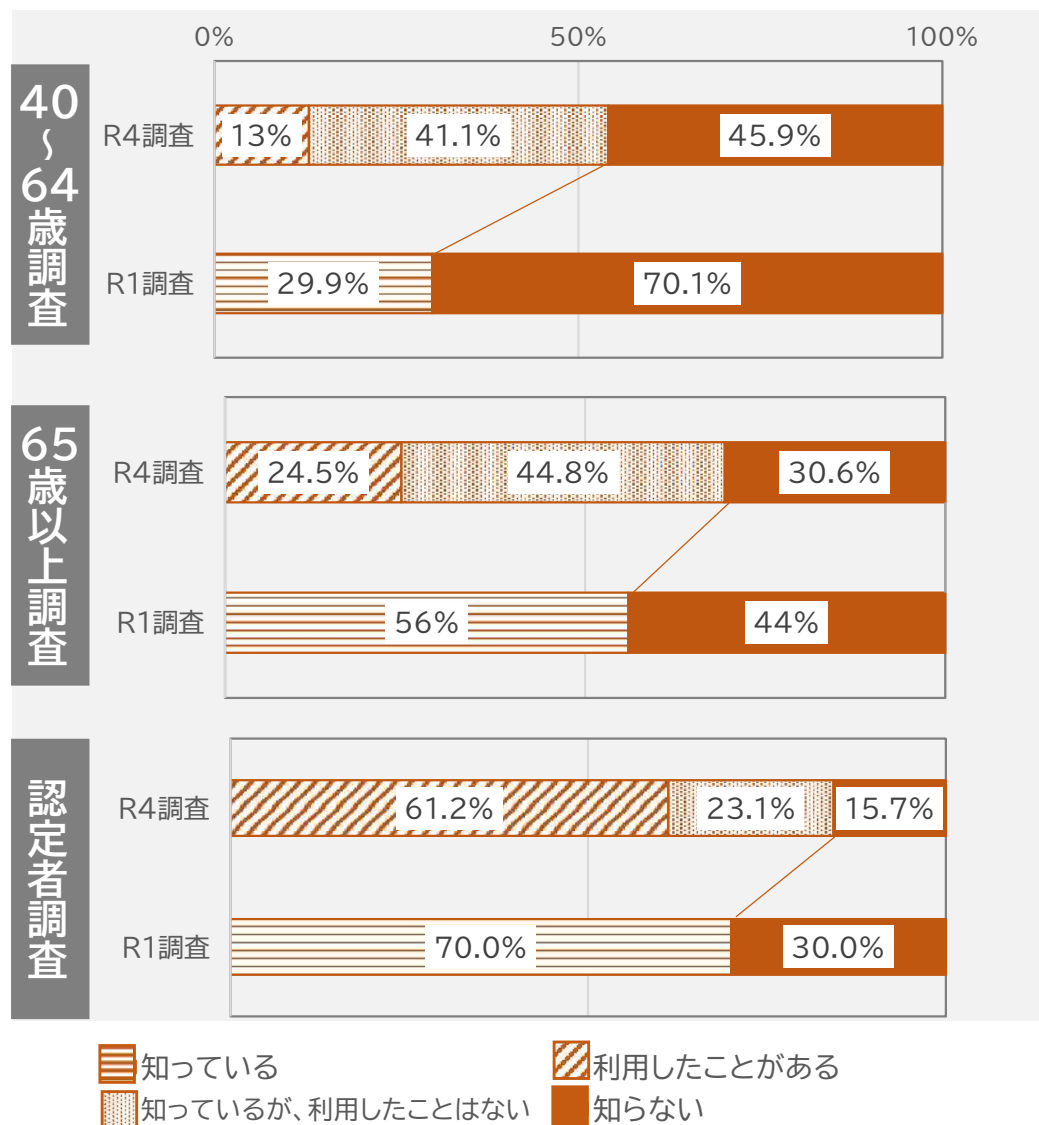


- いる
- かかりつけ歯科医はいないが、行く医療機関はだいたい決まっている
- いない

■前回の調査結果と比較し、10ポイント以上の変化があった項目

⑤地域包括支援センターについて

40～64歳調査・65歳以上調査・認定者調査のすべての調査において、地域包括支援センターについて「知らない」と答えた人が減少し、地域包括支援センターを知っている割合が増加した。



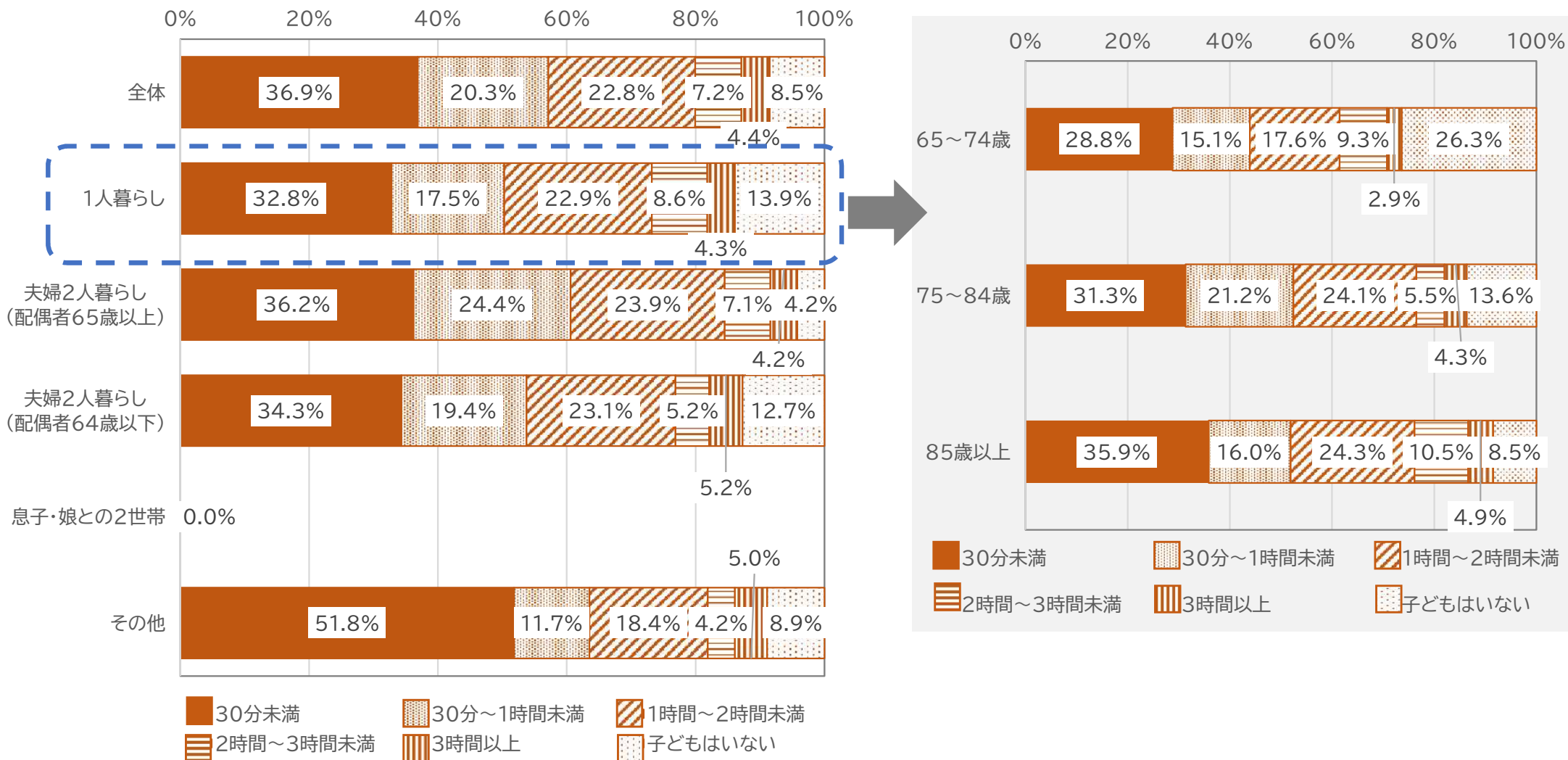
前回調査結果との比較について

- ▶ 調査結果全般見ると、前回の調査（令和元年12月実施）は、新型コロナウイルス感染症が流行する以前に実施している。前回の調査結果と今回の調査結果を比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてと思われる回答結果が多くあると感じ、取り巻く環境が異なっていることによる変化があったと推測できる。

■市が設定した独自項目

①1人暮らしの高齢者の状況

65歳以上調査において、1人暮らし高齢者を支援する上で、キーパーソンとなる子と住まいとの距離を確認したところ、全体平均の結果と比較し、「30分未満」「30分～1時間未満」の割合が低い。また、「子どもがいない」と答えた方も全体と比較し、1人暮らし高齢者の割合が高い。

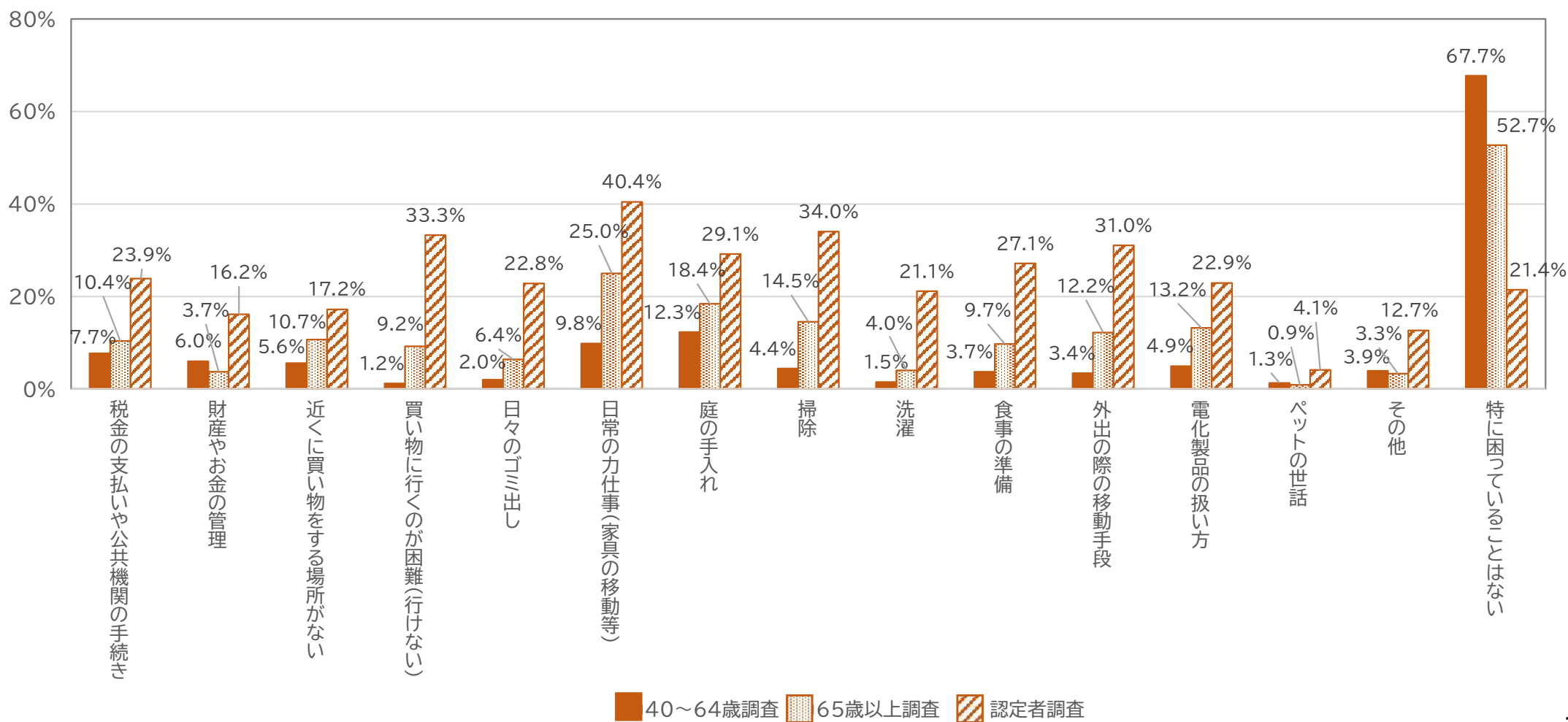


■市が設定した独自項目

②日常生活の状況（困りごと）

困りごとについて「特に困っていることがない」と答えた方が、40～64歳調査では67.7%であるが、65歳以上調査では52.7%、認定者調査では21.4%であった。

また、具体的に困っていることとしては、介護保険サービスで賄うことができない「日常の力仕事」や「庭の手入れ」などを答えた方が多くいることが分かった。

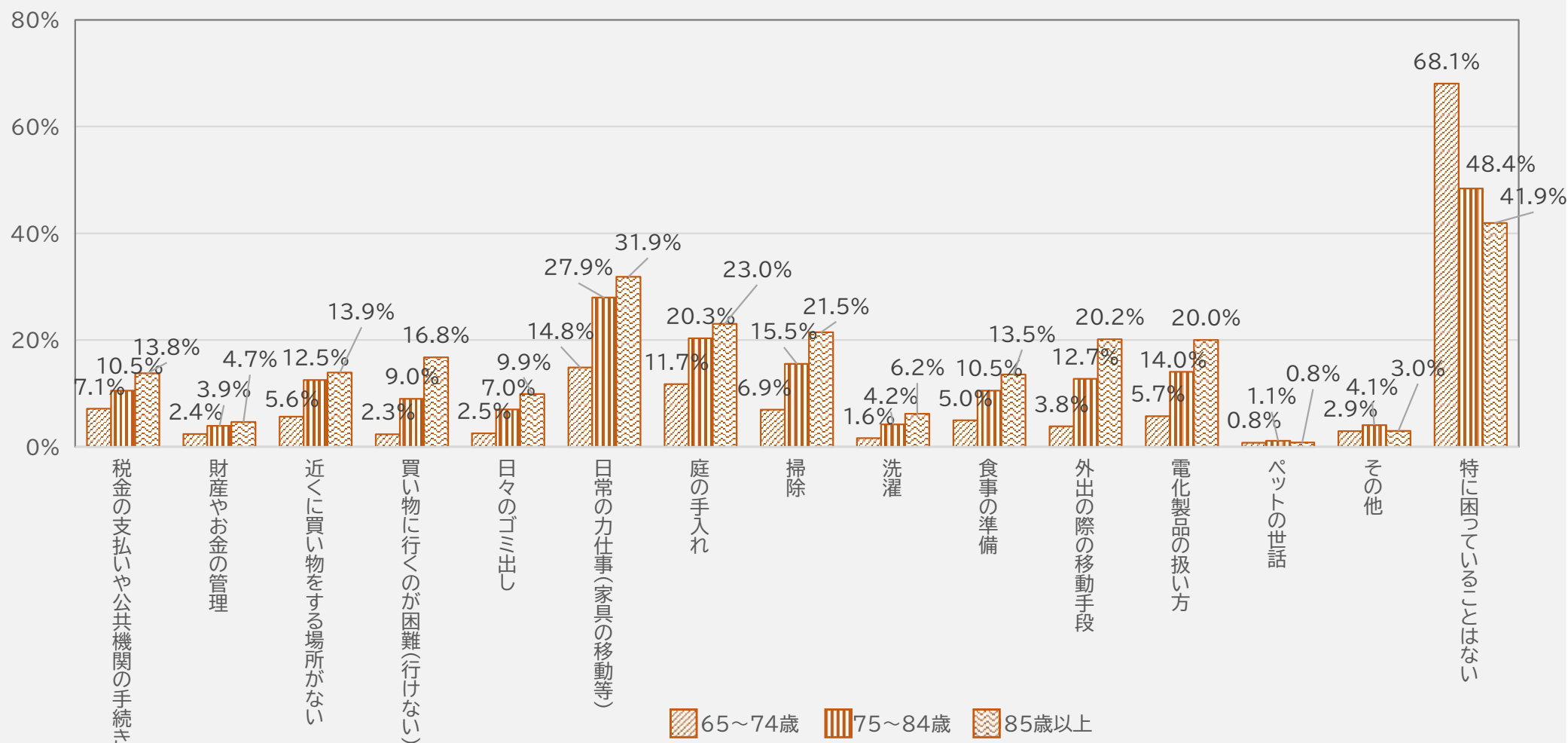


■市が設定した独自項目

②日常生活の状況（困りごと）

また年代別でみると、「特に困っていることはない」と答えた人は、65～74歳は68.1%、75～84歳は48.4%、85歳以上は41.9%であった。

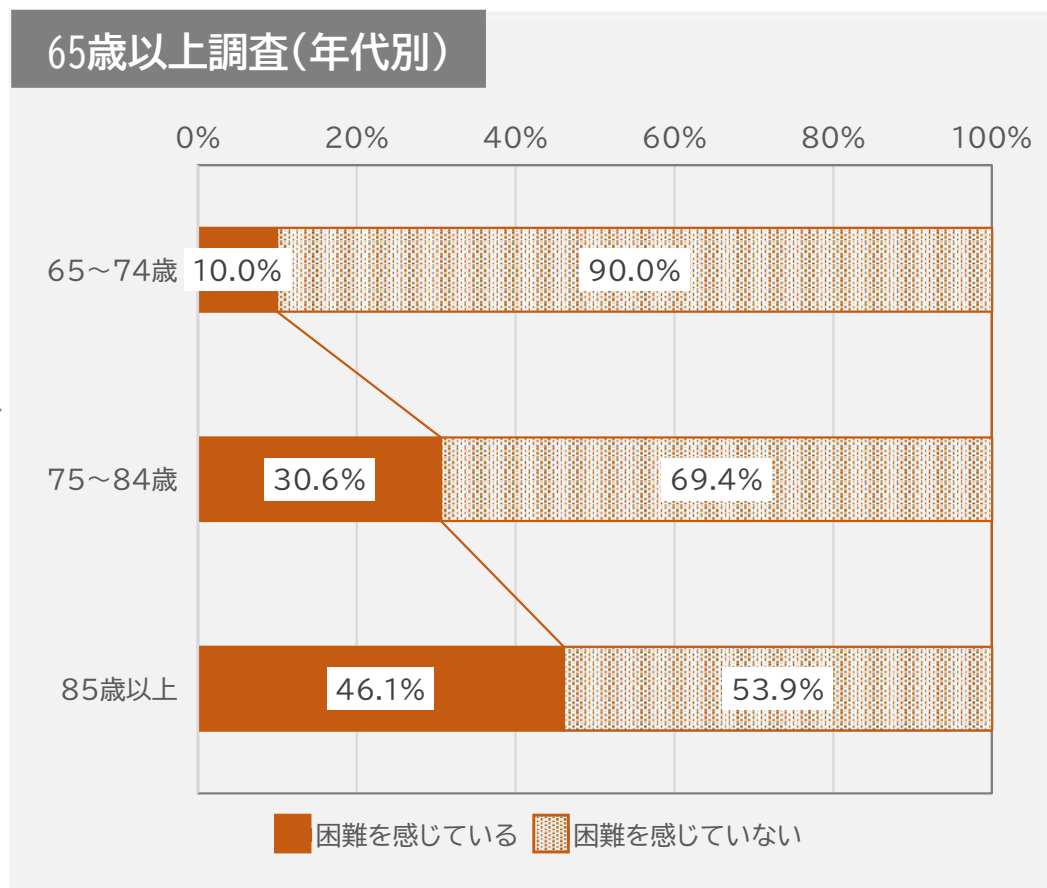
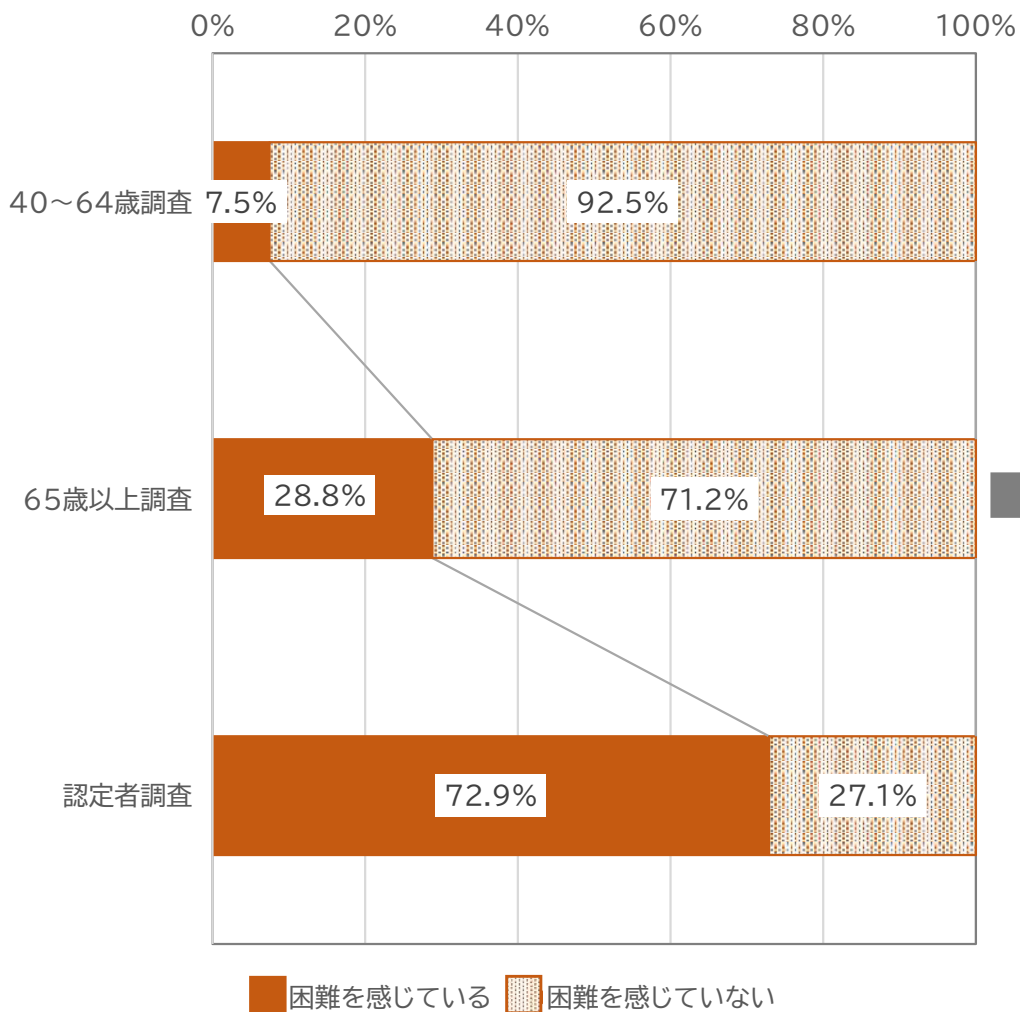
65歳以上調査(年代別)



■市が設定した独自項目

②日常生活の状況（移動）

日常的な移動に困難を感じているかどうかの設問では、40～64歳調査では、「困難を感じている」を答えた人は7.5%、65歳以上調査で28.8%、認定者調査では72.9%であった。また、年代別でみると、85歳以上の方は約2人に1人は困難を感じている。

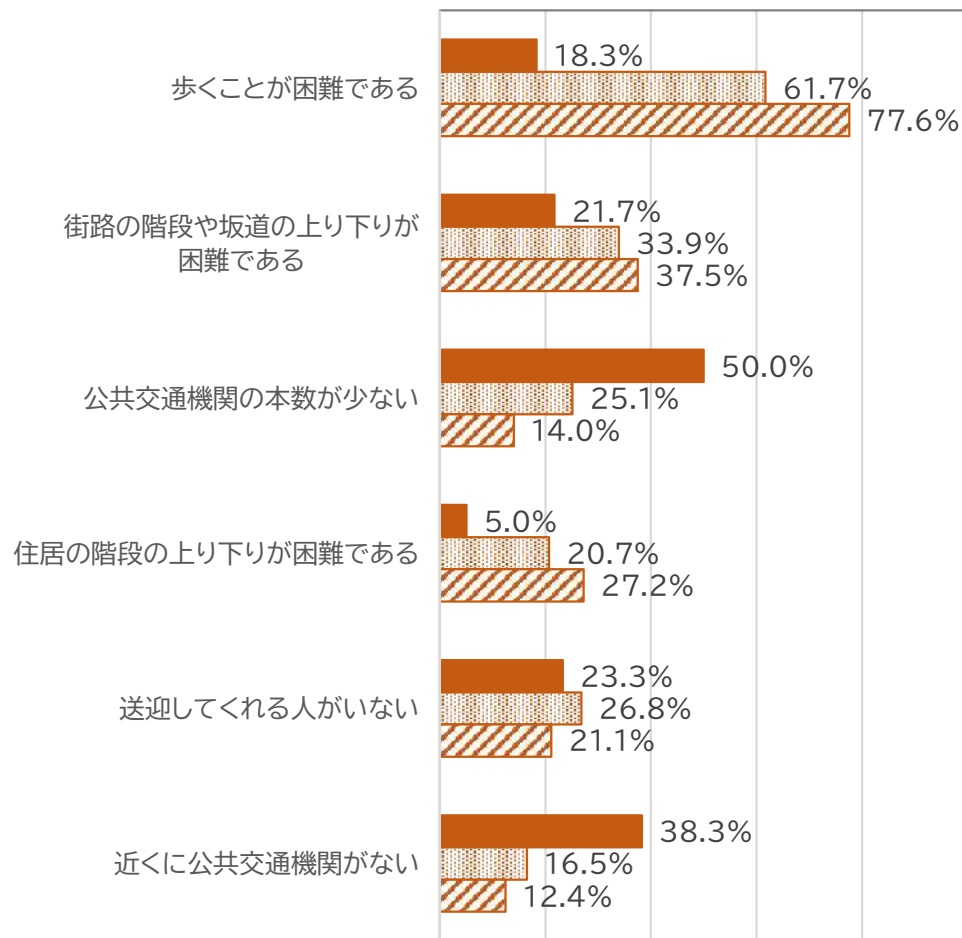


■市が設定した独自項目

②日常生活の状況（移動）

困難を感じている理由としては、40～64歳調査では公共交通機関に関する項目を選択する人が多いが、65歳以上調査や認定者調査では、歩くことや周辺の環境により困難と答えた人が多かった。また、年代別で見ると、85歳以上では、3人に2人が「歩くことが困難である」と回答している。

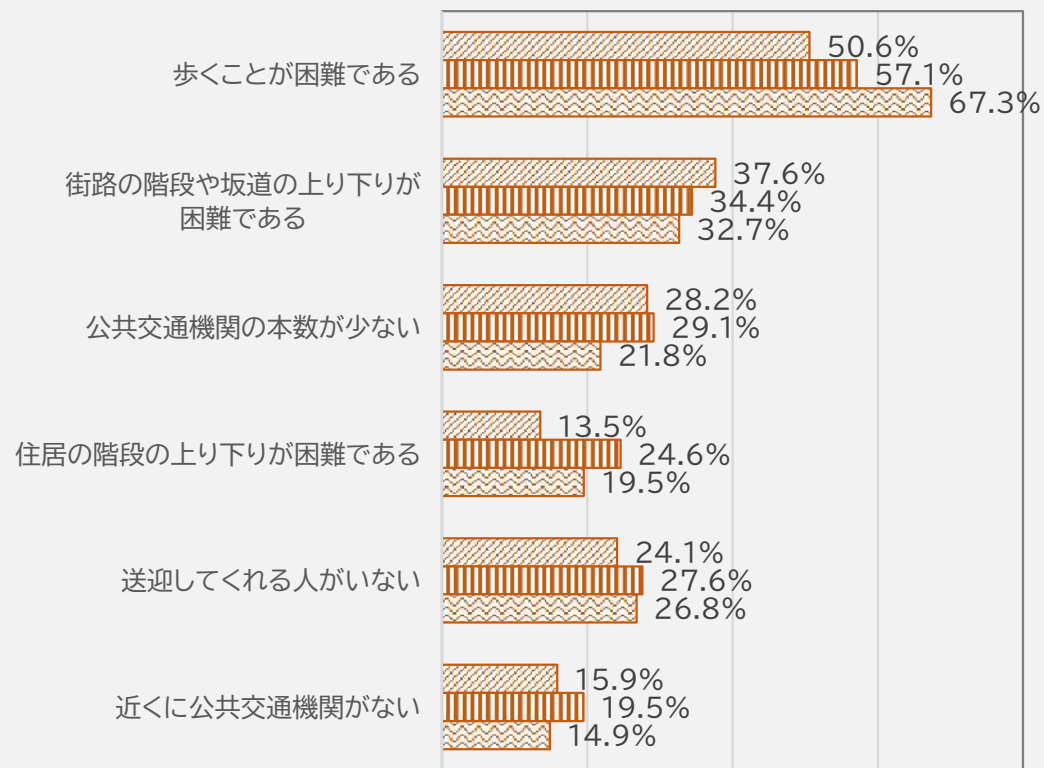
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 40～64歳調査 ■ 65歳以上調査 ■ 認定者調査

65歳以上調査（年代別）

0% 20% 40% 60% 80%



■ 65～74歳 ■ 75～84歳 ■ 85歳以上

■市が設定した独自項目

③趣味

行っている趣味として、40～64歳調査・65歳以上調査・認定者調査ともに共通して取り組んでいる人が多いものは、「読書」「散歩・ジョギング」「音楽鑑賞」であった。

また、40～64歳調査・65歳以上調査・認定者調査ともに、今後やってみたいことは、1位「旅行」、2位「散歩・ジョギング」と共通していた。



行っていること

	40～64歳調査	65歳以上調査	認定者調査
1	インターネット 34.2%	園芸・庭いじり 42.2%	散歩・ジョギング 24.1%
2	音楽鑑賞 30.2%	散歩・ジョギング 38.5%	読書 23.9%
3	テレビゲーム・ スマホゲーム 29.0%	読書 35.6%	園芸・庭いじり 23.7%
4	読書 28.4%	旅行 26.8%	音楽鑑賞 18.5%
5	散歩・ジョギング 28.1%	農作物の栽培 20.5%	その他の活動 15.2%

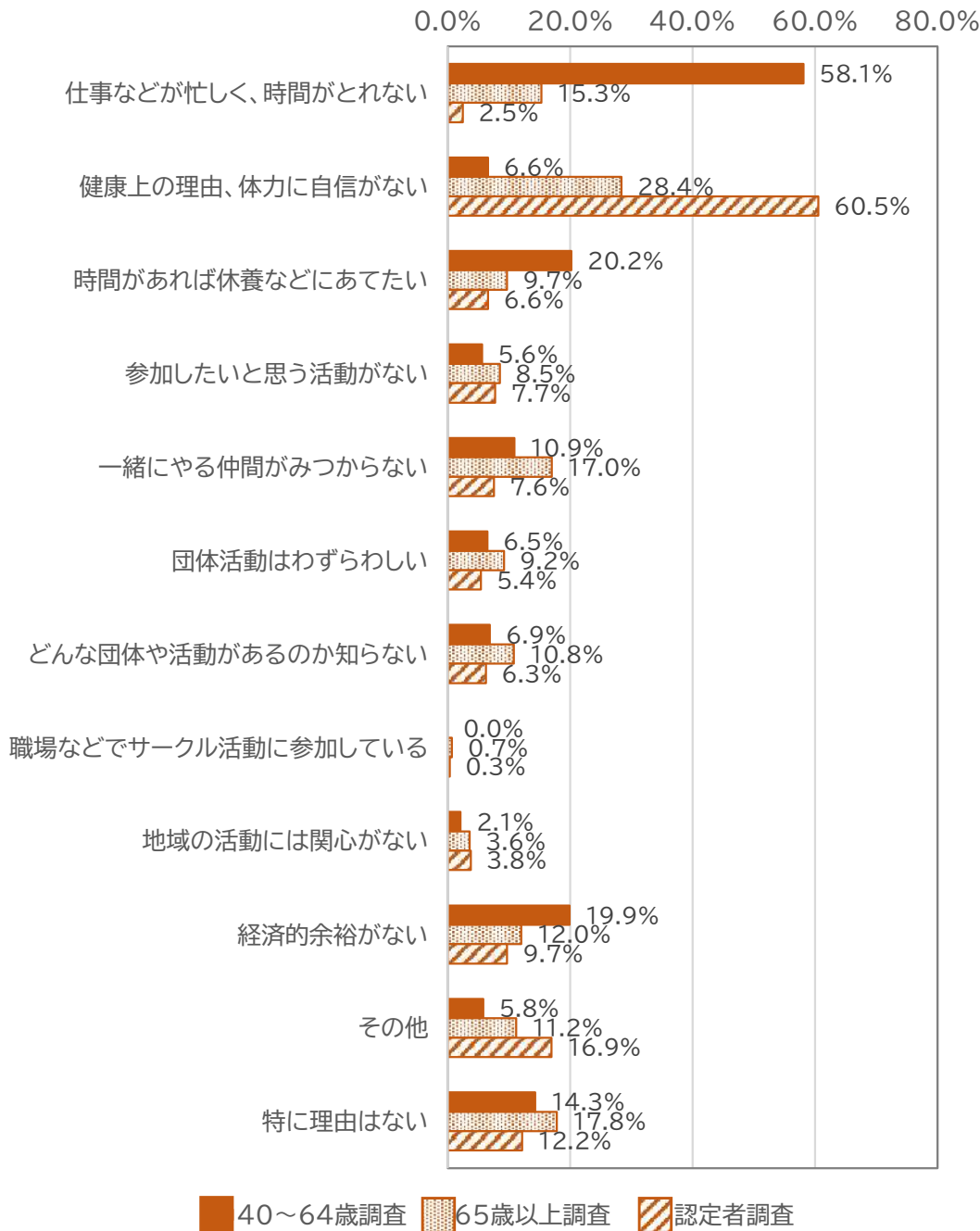


やってみたいこと

	40～64歳調査	65歳以上調査	認定者調査
1	旅行 35.8%	旅行 38.0%	旅行 32.8%
2	散歩・ジョギング 15.1%	散歩・ジョギング 16.3%	散歩・ジョギング 17.8%
3	登山 13.7%	園芸・庭いじり 11.8%	園芸・庭いじり その他の活動 12.8%
4	その他の運動 12.1%	農作物の栽培 9.8%	映画・舞台鑑賞 12.5%
5	その他の活動 11.3%	カラオケ 映画・舞台鑑賞 9.6%	カラオケ 11.2%

■市が設定した独自項目

③趣味（取り組めていない理由）



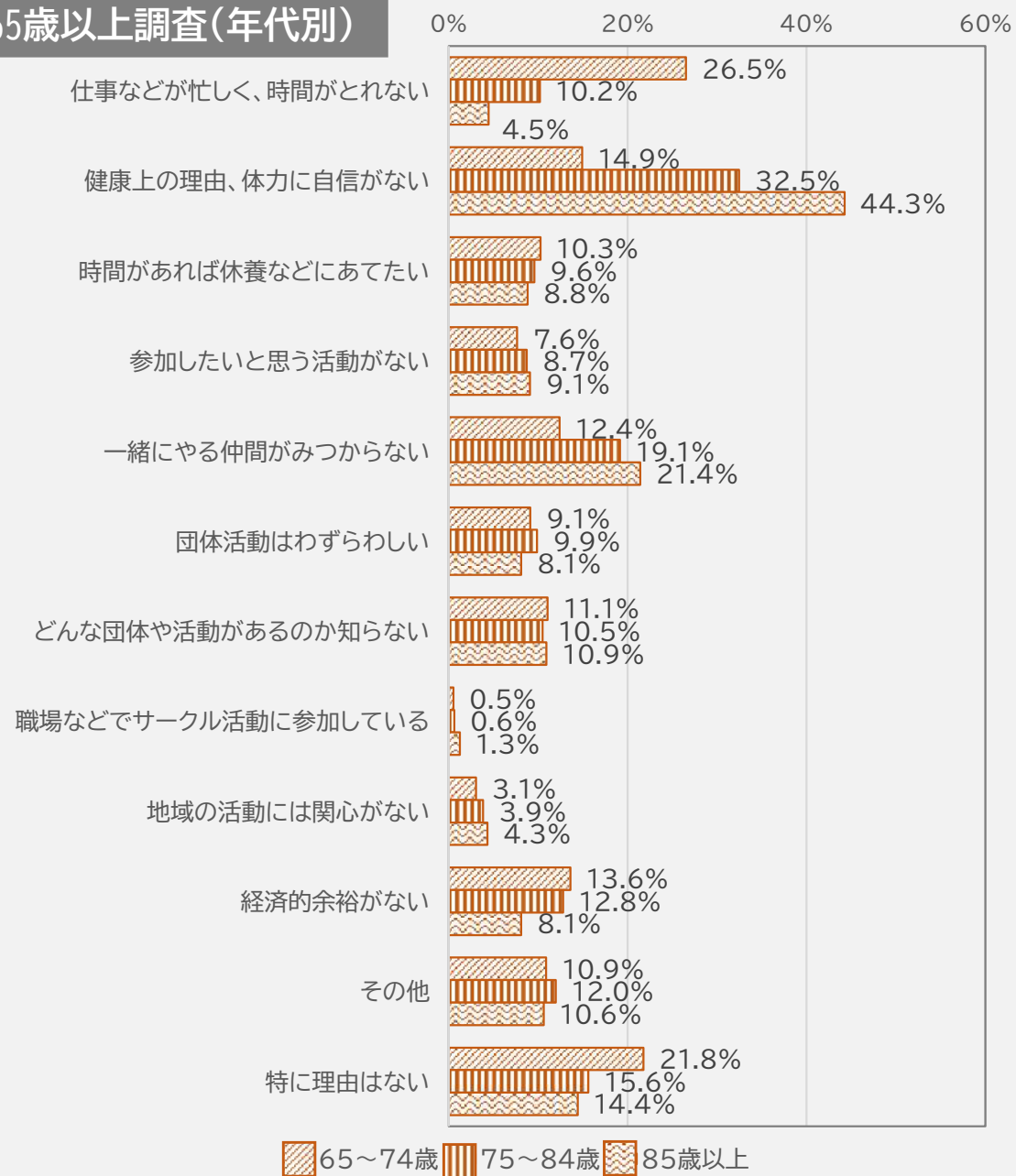
取り組めていない理由としては、40～64歳調査では「仕事などが忙しく、時間がとれない」と答えた人が多く、65歳以上調査・認定者調査においては、「健康上の理由で、体力に自信がない」と答えた人が多かった。

40～64歳調査・65歳以上調査・認定者調査全てにおいて、特に理由はないが取り組めていない人が一定数いることも分かった。

■市が設定した独自項目

③趣味（取り組めていない理由）

65歳以上調査(年代別)



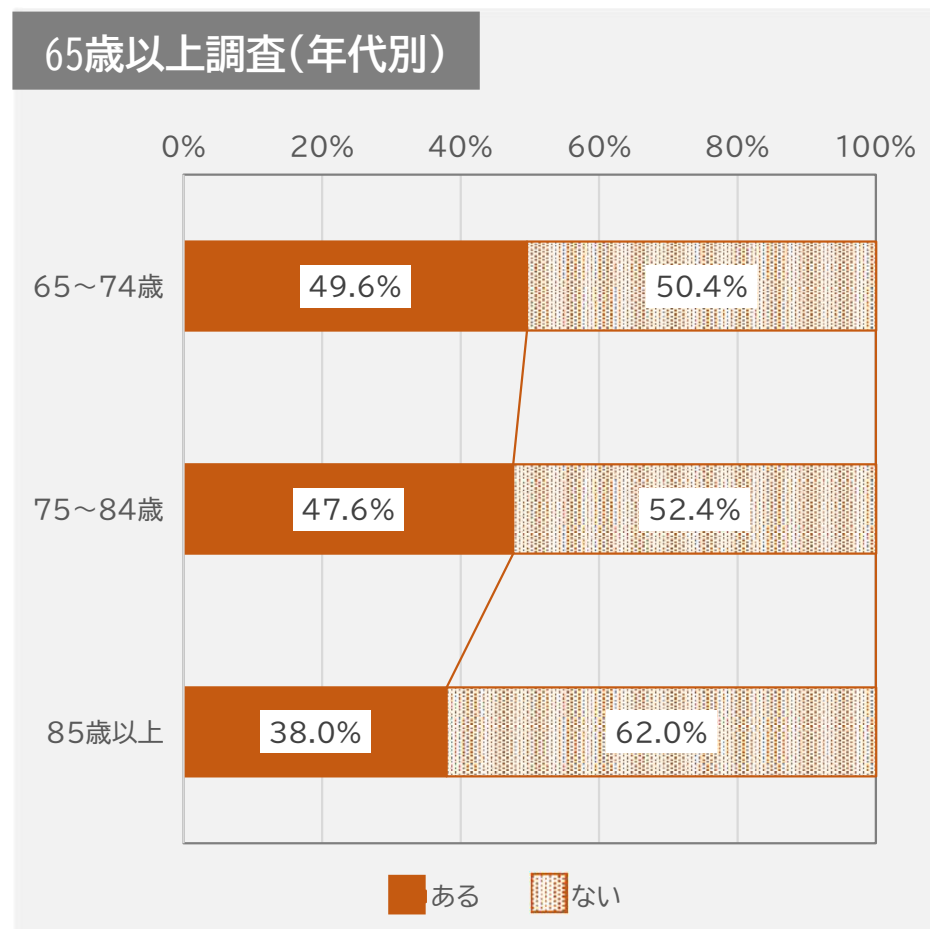
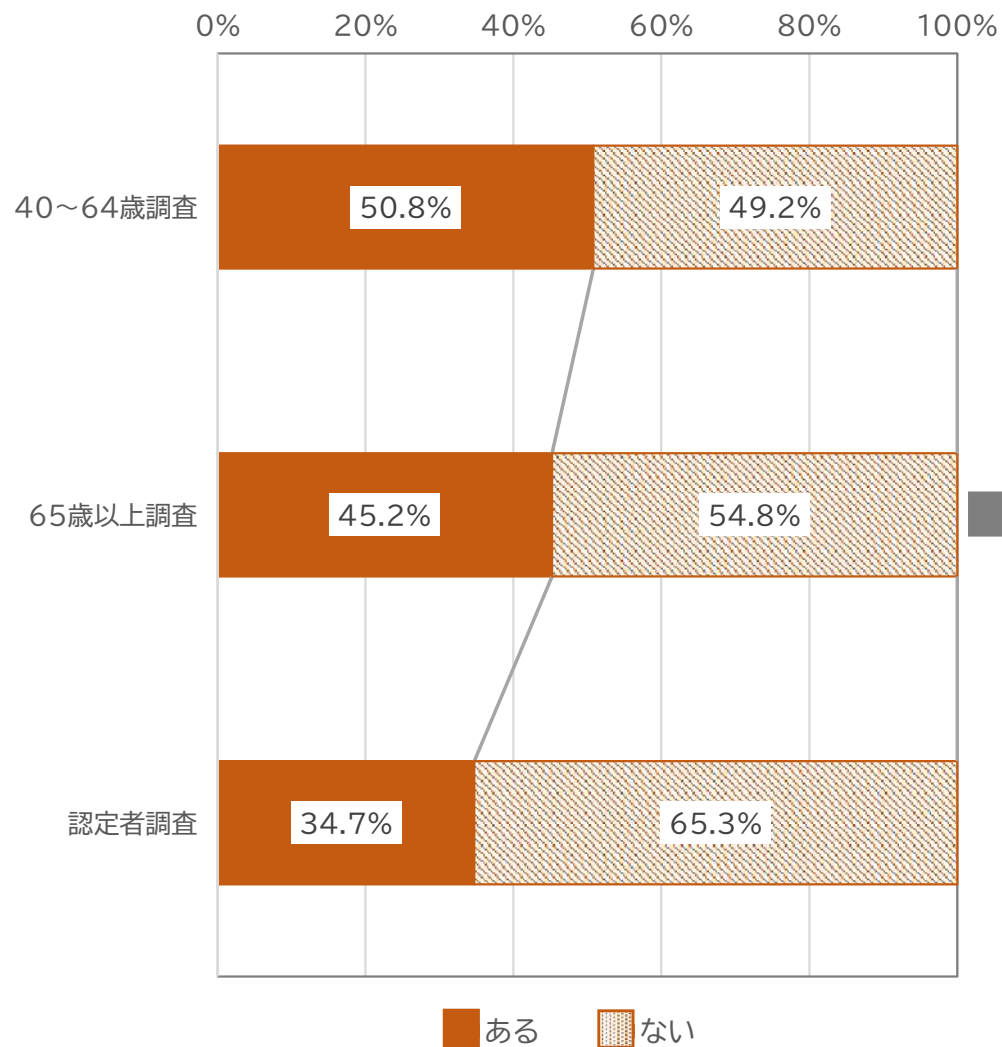
年代別に取り組めていない理由を見ると、75歳～84歳の3人に1人、85歳以上の約半数は、「健康上の理由、体力に自信がない」と回答している。

また、65～74歳の4人に1人は、「仕事などが忙しく、時間がとれない」と回答している。

■市が設定した独自項目

④居場所づくり、社会参加及び活動の場

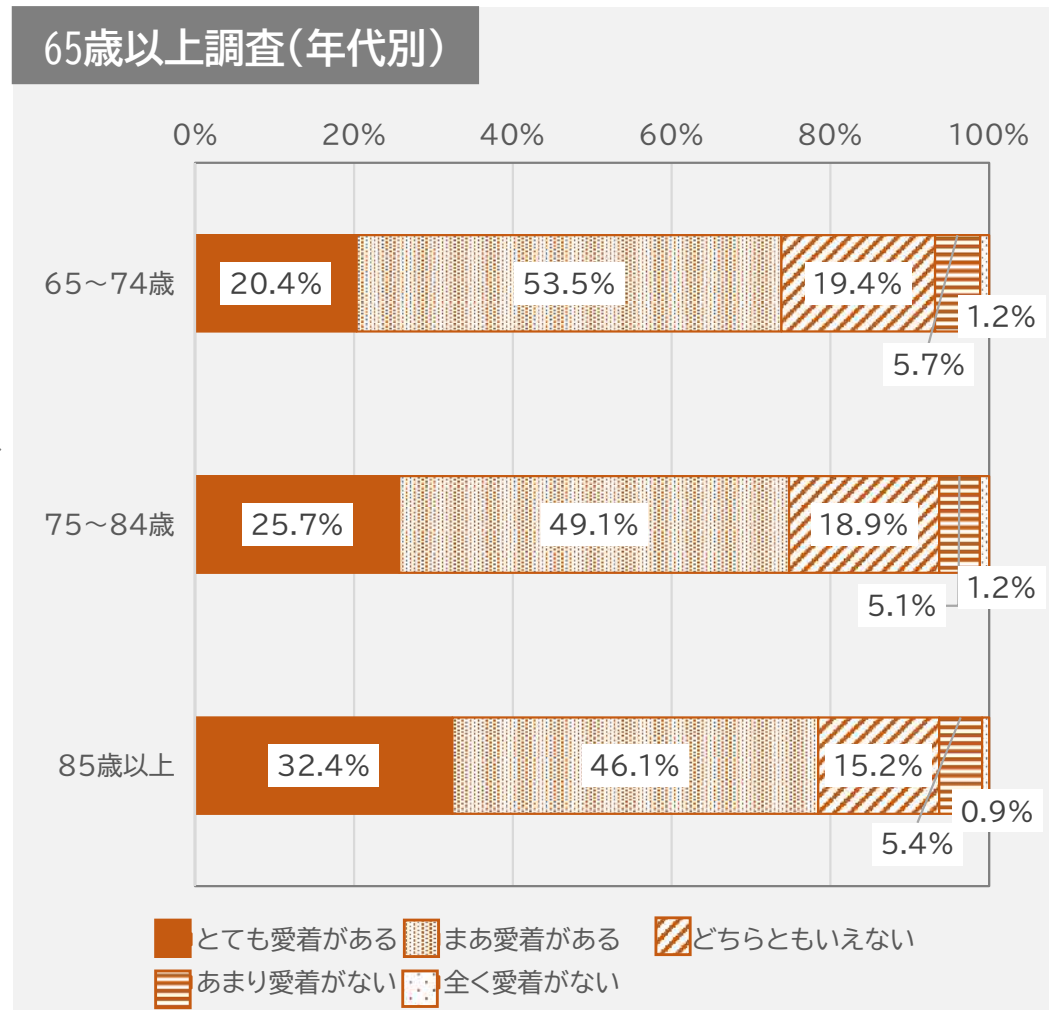
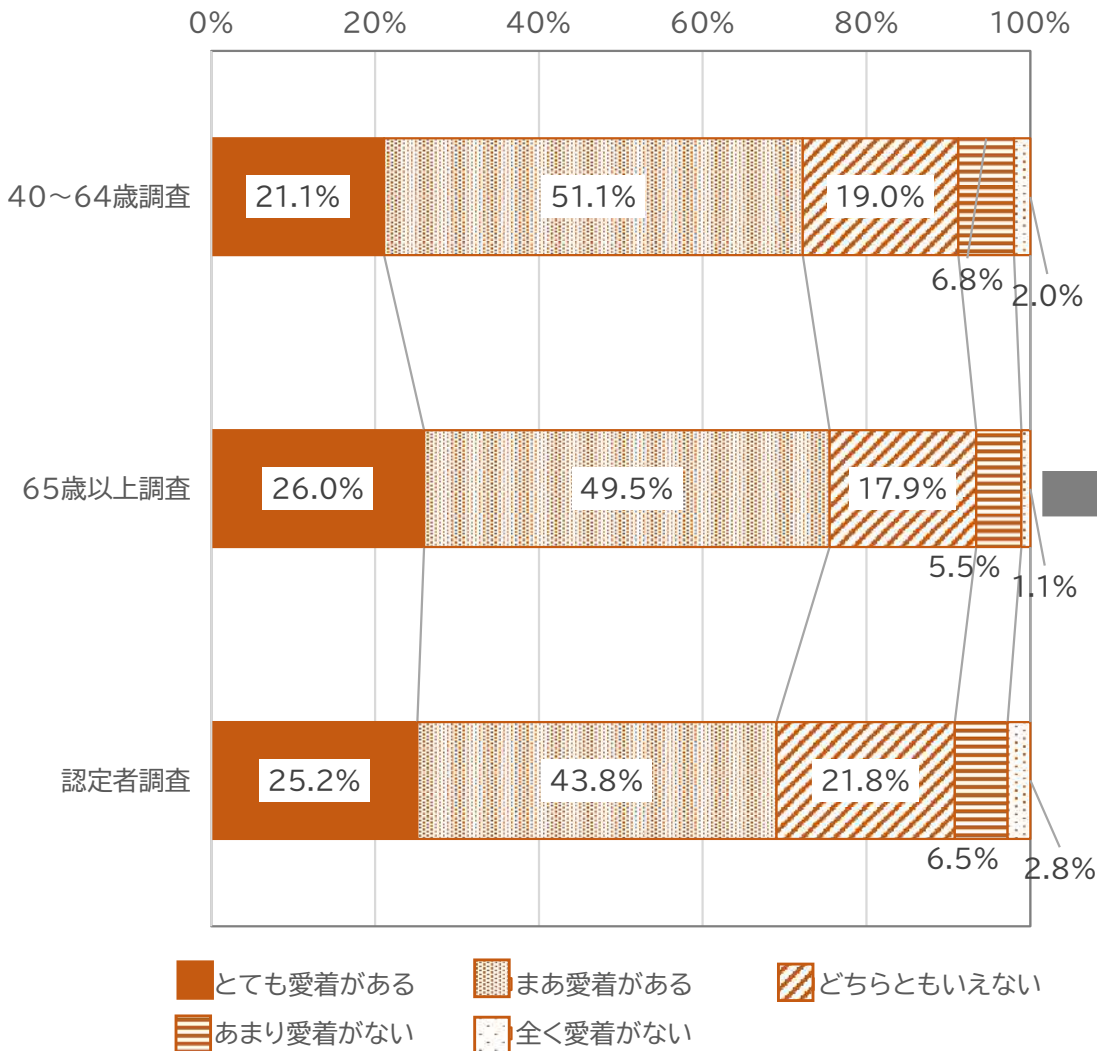
自宅以外で落ち着ける・安心できる居場所について、「ない」と答えた人が、40～64歳調査49.2%、65歳以上調査で54.8%、認定者調査65.3%であった。



■市が設定した独自項目

⑤地域との関わり状況（地域への愛着）

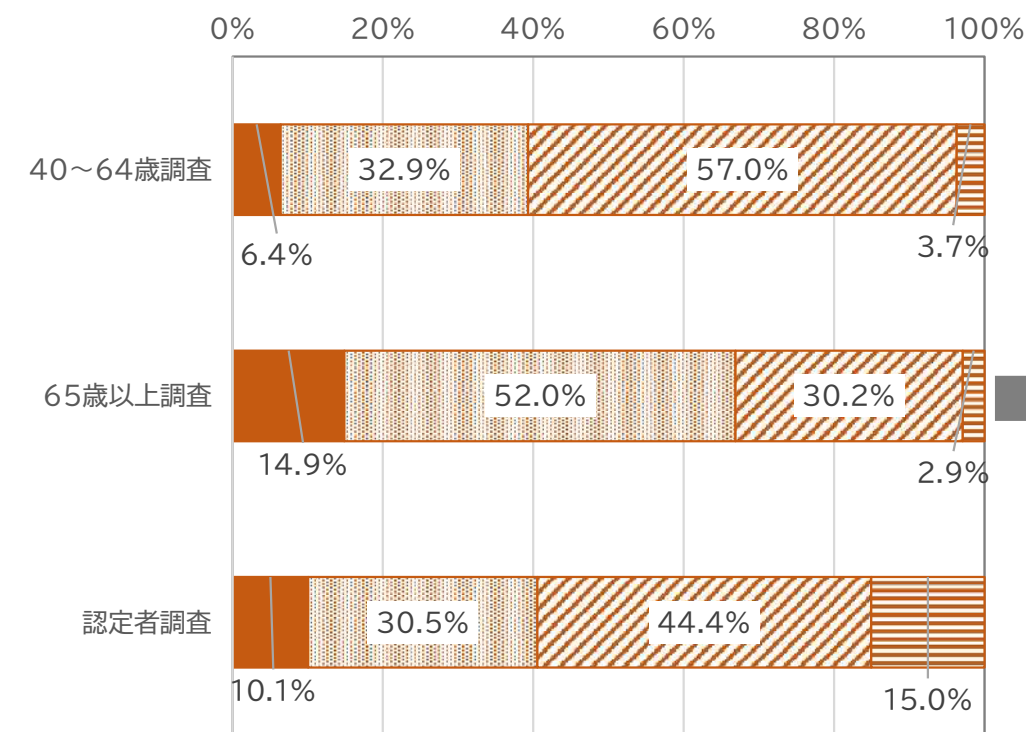
地域への愛着は、「とても愛着がある」「まあ愛着がある」があると答えた人は、40～64歳調査72.2%、65歳以上調査75.5%、認定者調査は69.0%であった。



■市が設定した独自項目

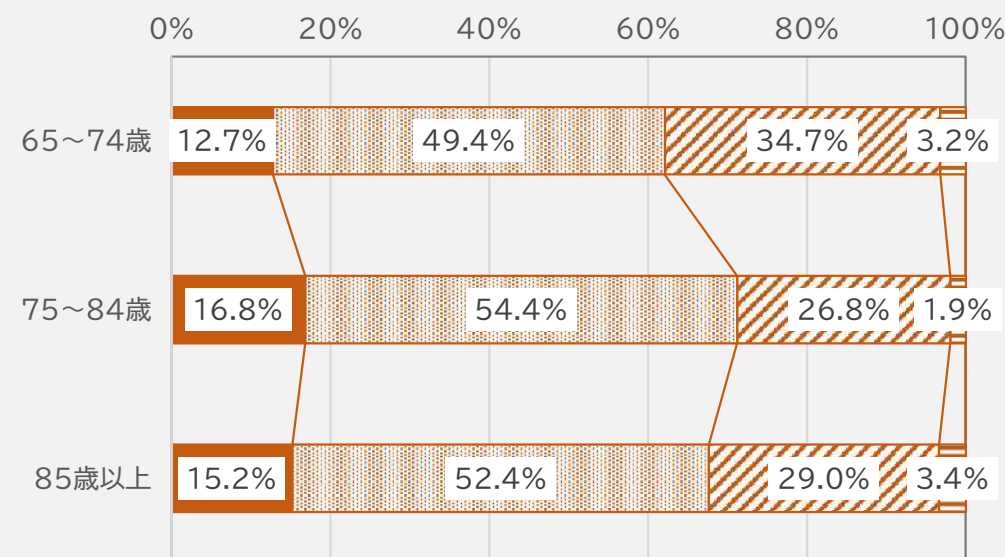
⑤地域との関わり状況（近所との付き合い）

ご近所との付き合いは、あいさつ程度またはまったくない人の割合は、40～64歳調査60.7%、65歳以上調査33.1%、認定者調査は59.4%であった。



- たがいに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる
- 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている
- あいさつ程度の最小限のつきあい
- まったくしていない

65歳以上調査(年代別)



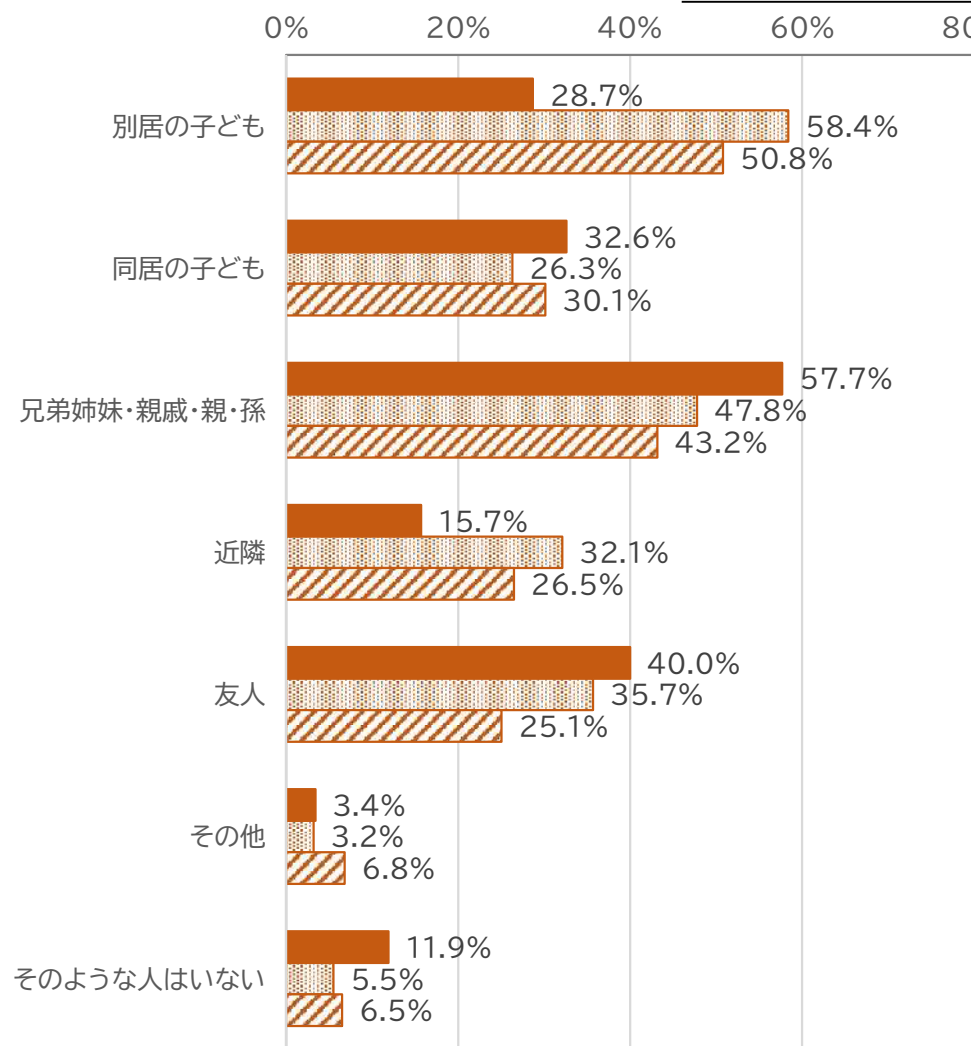
- たがいに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる
- 日常的に立ち話をする程度のつきあいは、している
- あいさつ程度の最小限のつきあい
- まったくしていない

■市が設定した独自項目

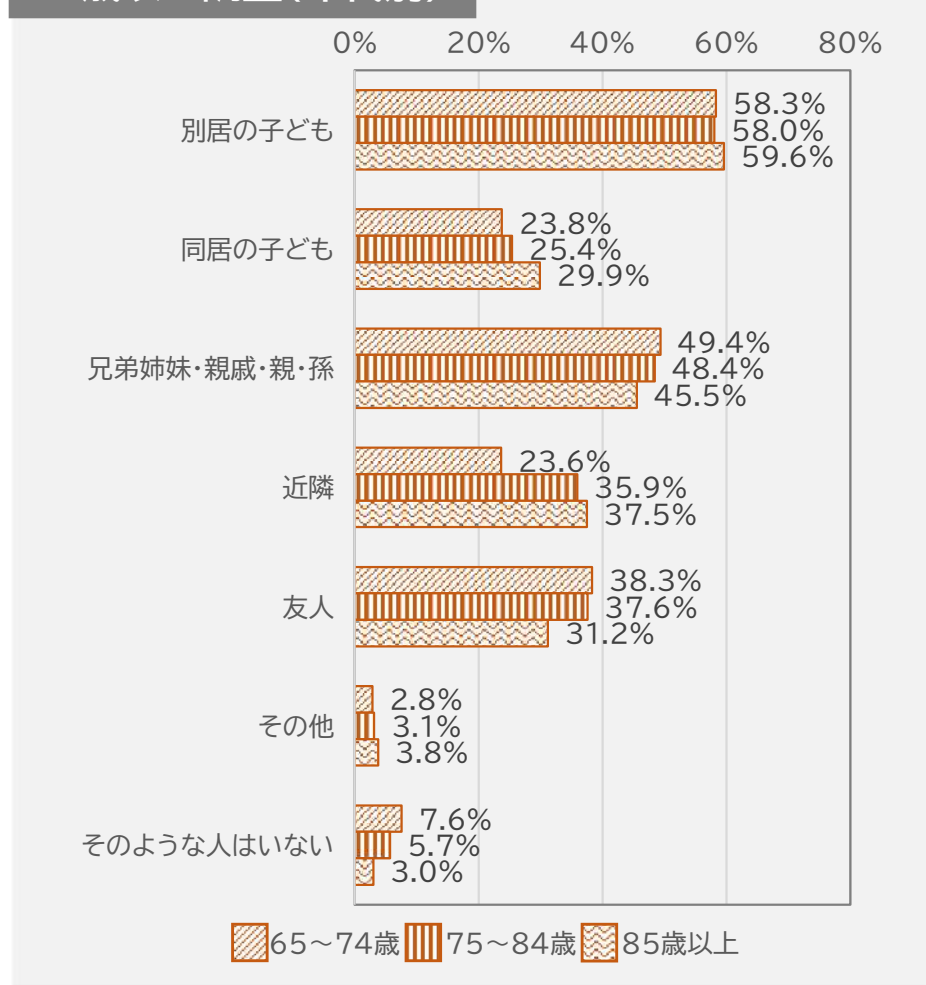
⑤地域との関わり状況（定期的な声かけ）

定期的に声をかけたり、声をかけられたりする人は、親族が多いものの、近隣や友人と答えた方も一定数おり、その反面、「そのような人はいない」と答えた人も一定数いることが分かる。

自分のことを気にかけて、定期的に声をかける人



65歳以上調査(年代別)



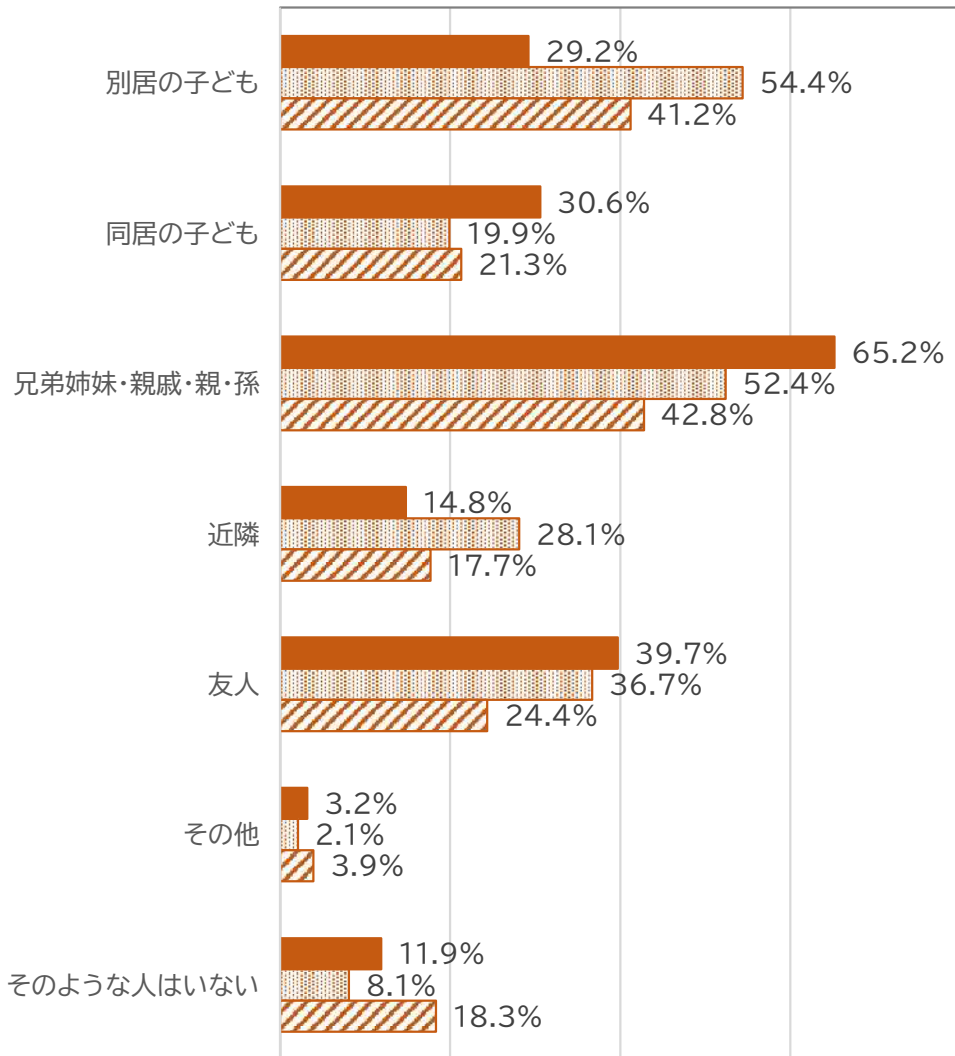
■ 40～64歳調査 ■ 65歳以上調査 ▨ 認定者調査

■市が設定した独自項目

⑤地域との関わり状況（定期的な声かけ）

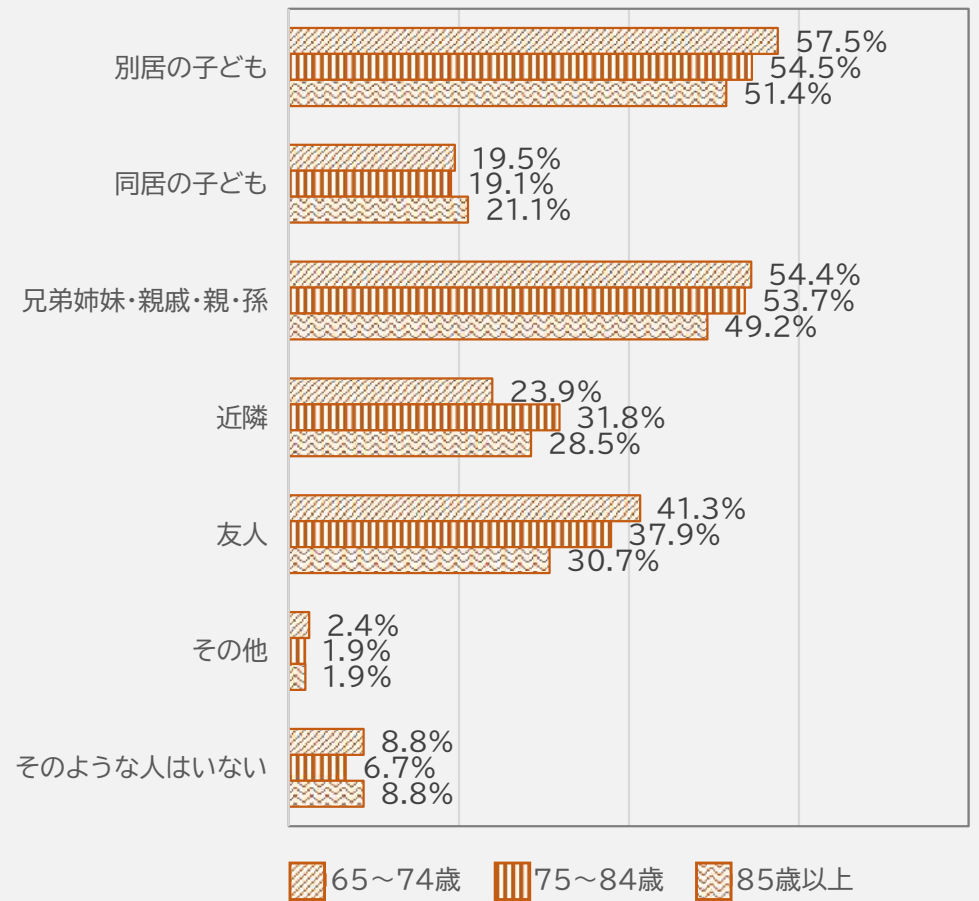
自分から気にかけて、定期的に声をかける人

0% 20% 40% 60% 80%



65歳以上調査(年代別)

0% 20% 40% 60% 80%

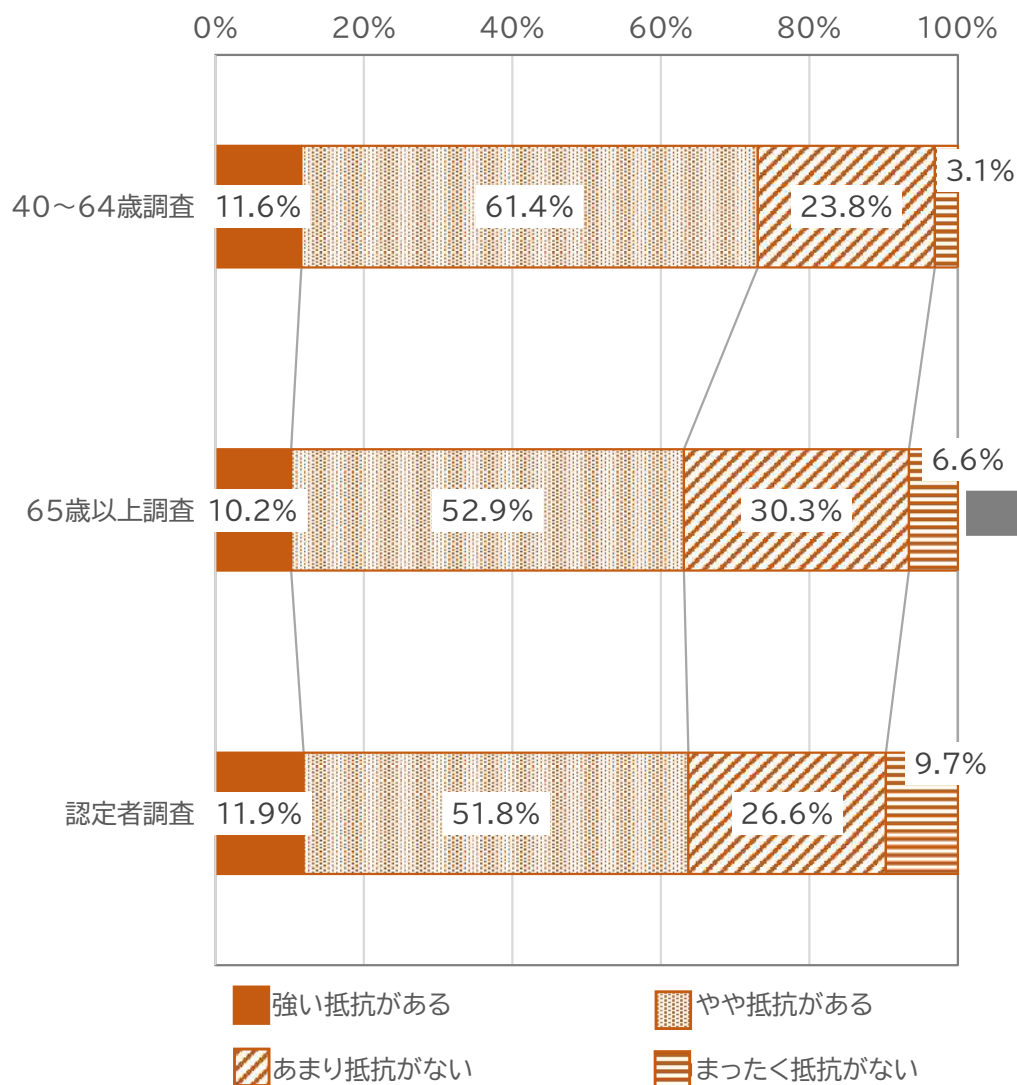


■ 40～64歳調査 ■ 65歳以上調査 ■ 認定者調査

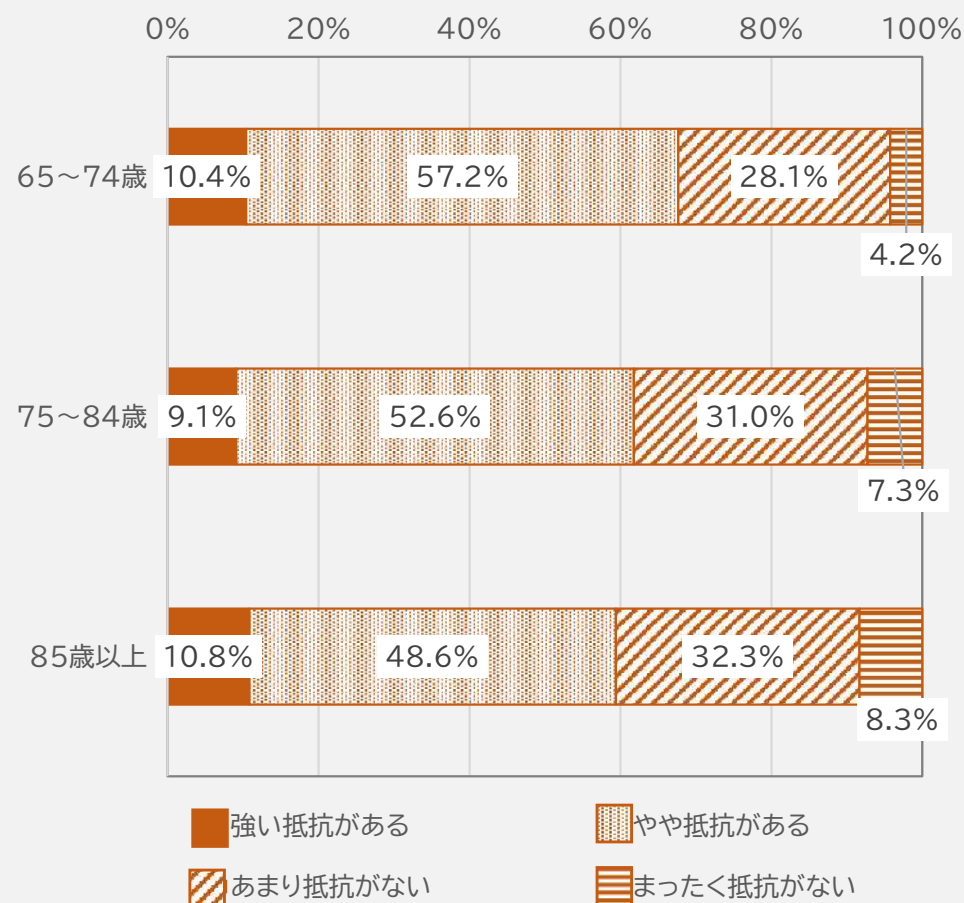
■市が設定した独自項目

⑤地域との関わり状況（頼ること）

地域に頼ることに対する抵抗は、「強い抵抗がある」「やや抵抗がある」と答えた人は、40～64歳調査73.0%、65歳以上調査63.1%、認定者調査63.7%である。



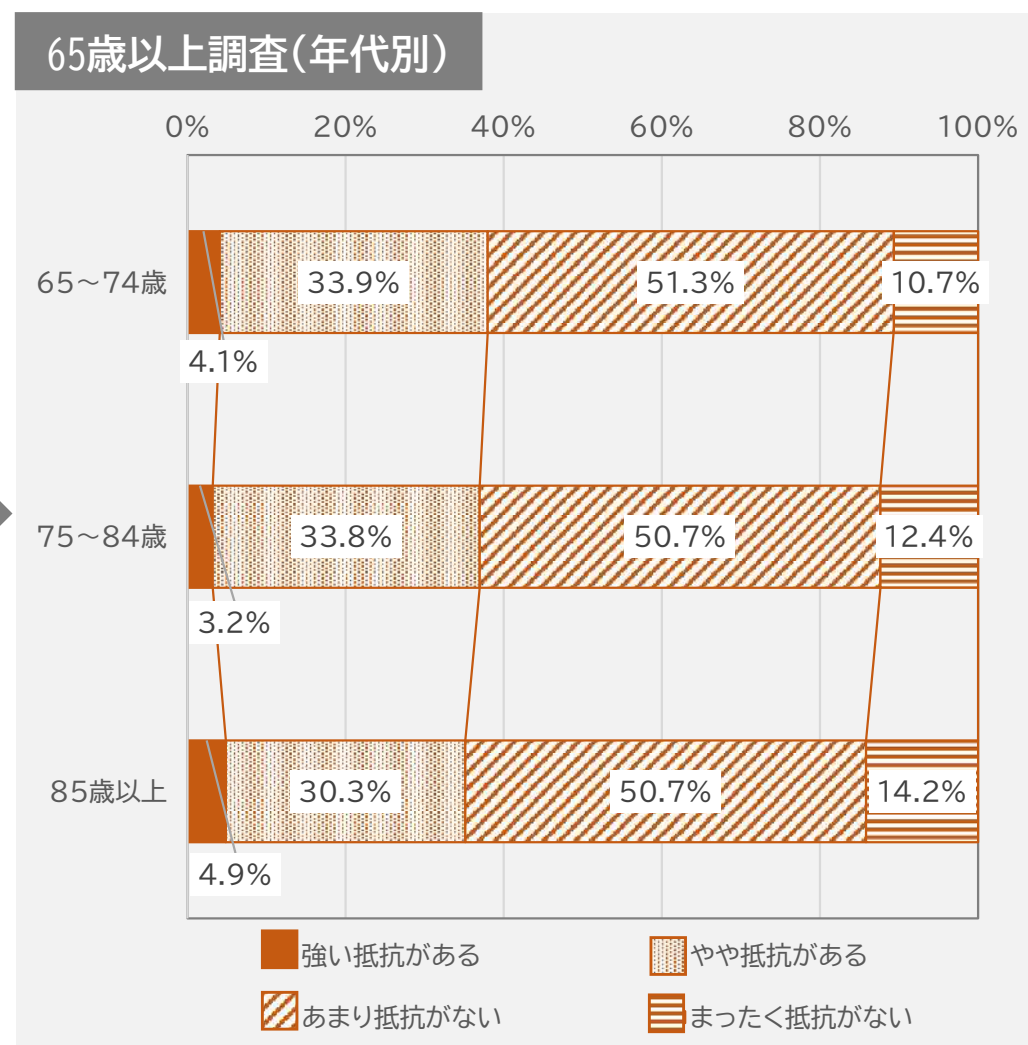
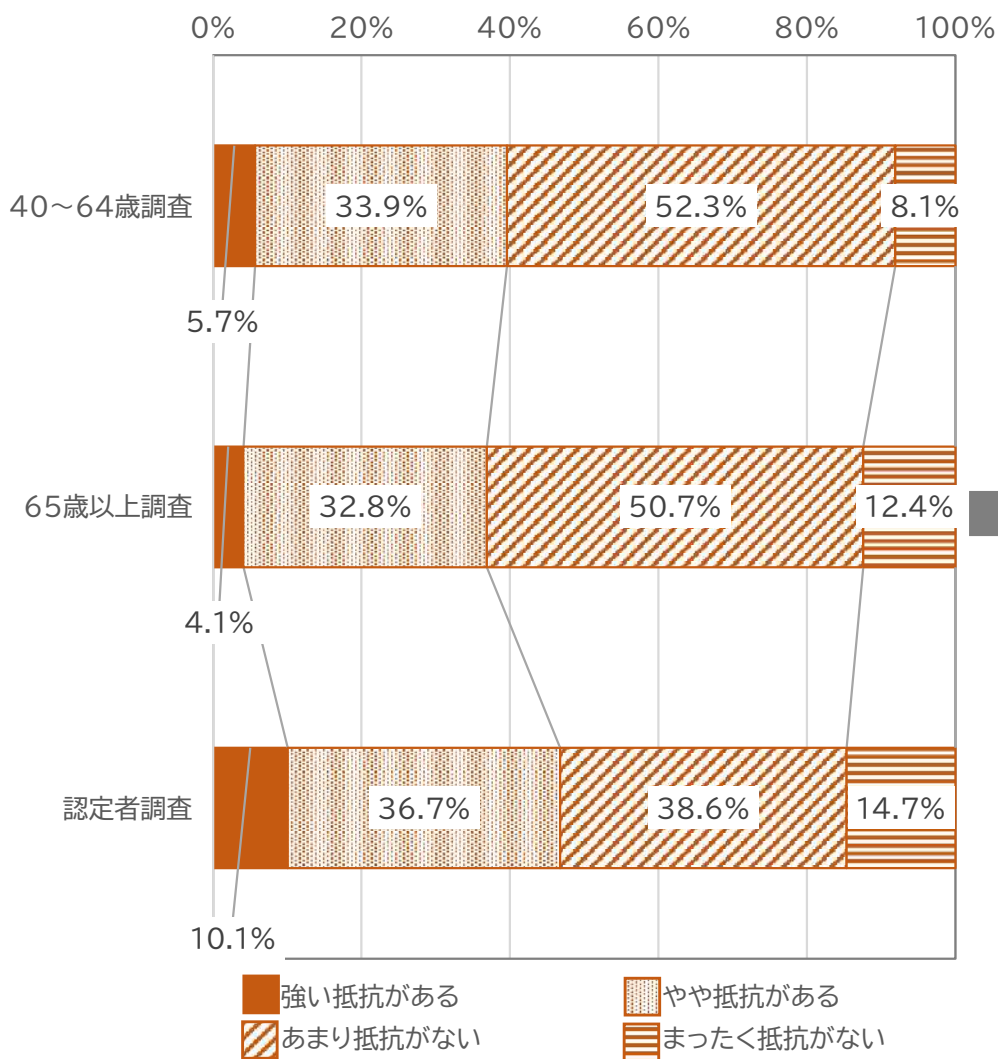
65歳以上調査(年代別)



■市が設定した独自項目

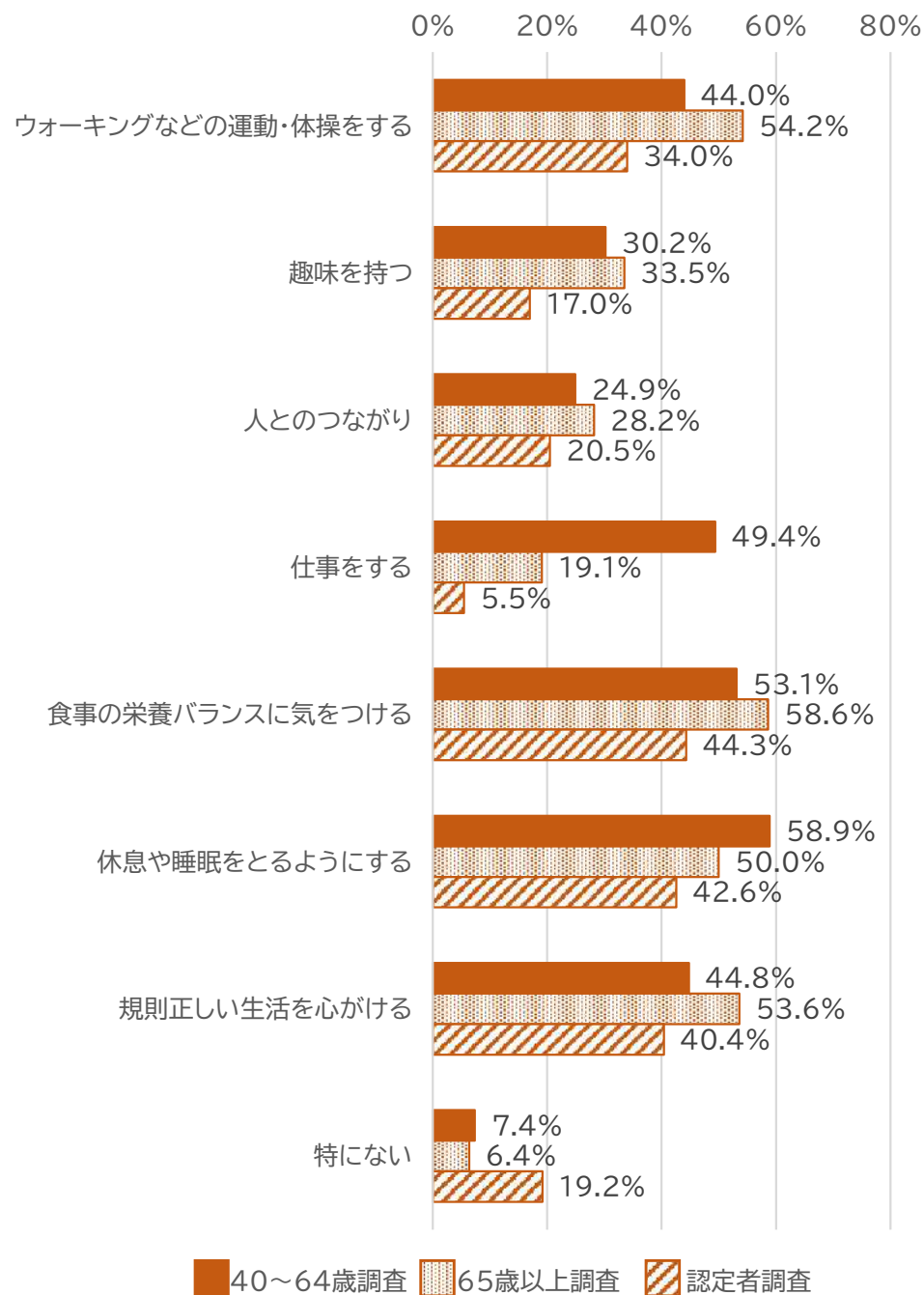
⑤地域との関わり状況（頼られること）

地域の人に頼りにされることへの抵抗については、「あまり抵抗がない」「まったく抵抗がない」と答えた人は、40～64歳調査60.4%、65歳以上調査63.1%、認定者調査53.3%であり、見守りや支え手となり得る人も多くいることが分かった。



■市が設定した独自項目

⑥健康づくりの取組状況

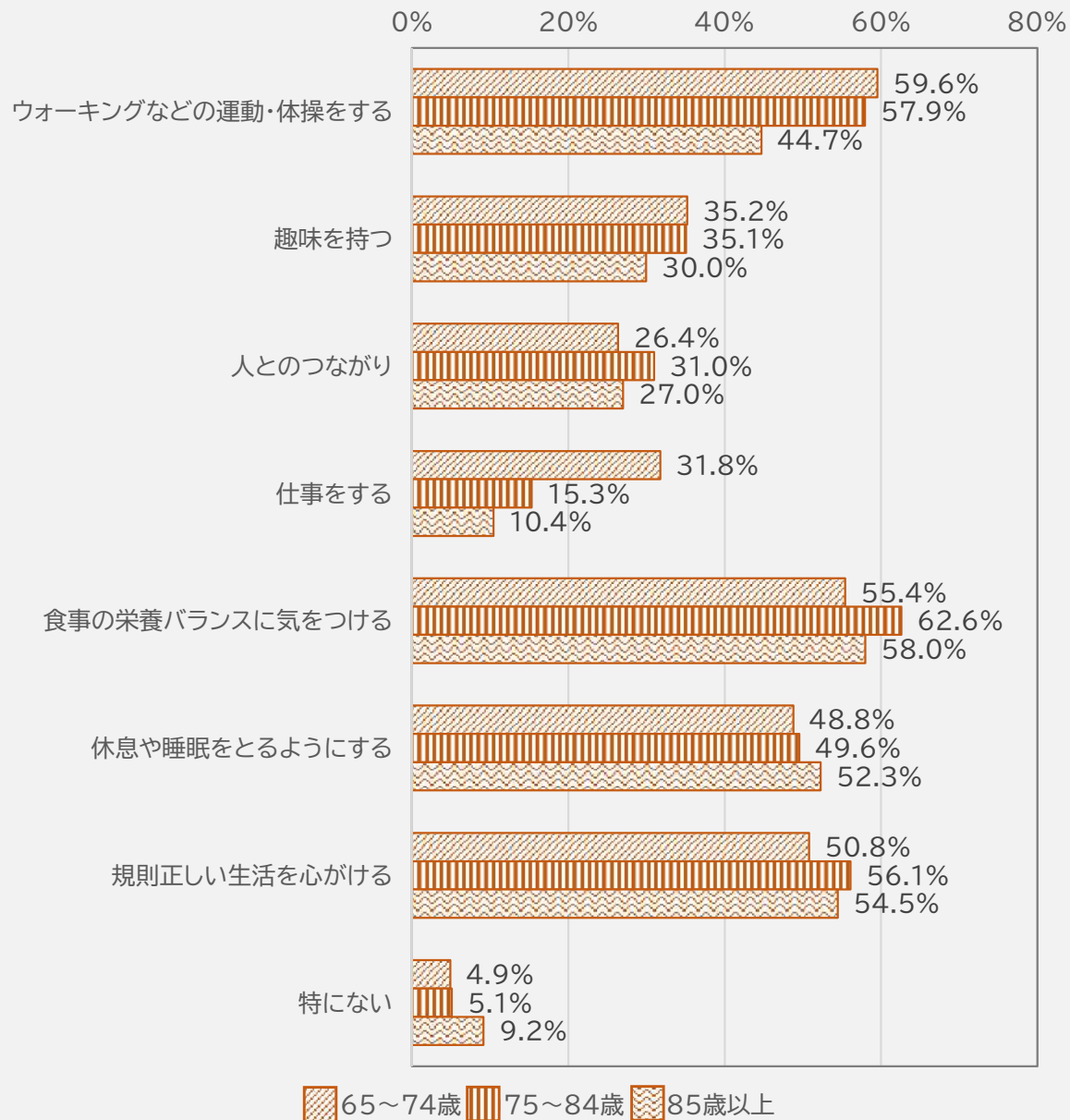


40～64歳調査では、65歳以上調査や認定者調査と比べ、「仕事をする」と答えた人の割合が高い。また、どの調査においても、「趣味を持つ」「人とのつながり」と答えた人の割合は、ほかの選択肢にある取組と比べ、低い割合となっている。

■市が設定した独自項目

⑥健康づくりの取組状況

65歳以上調査(年代別)



65歳以上調査において、健康づくりの取組を年代別で見ると、65歳～74歳の3人に1人は「仕事をする」と回答している。

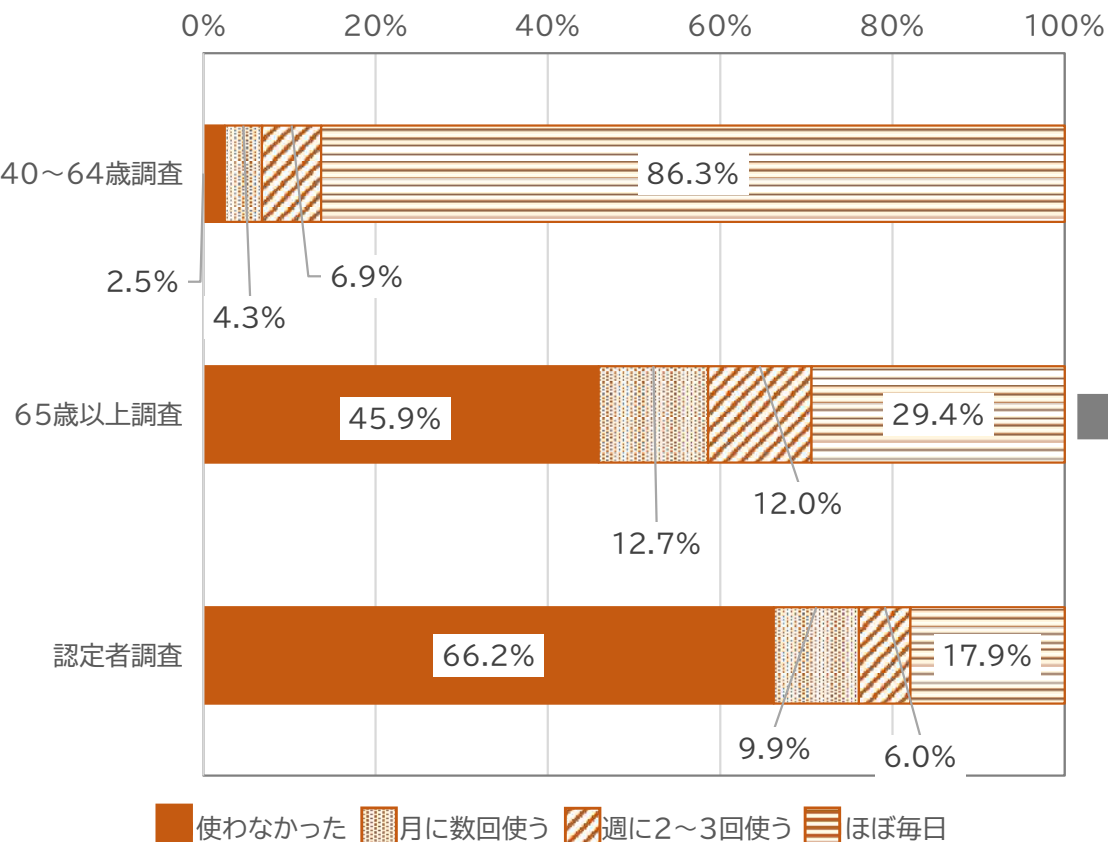
また、「ウォーキングなどの運動・体操をする」と答えた割合は、85歳以上では、他の年代と比較し、10ポイント以上低くなっている。

■市が設定した独自項目

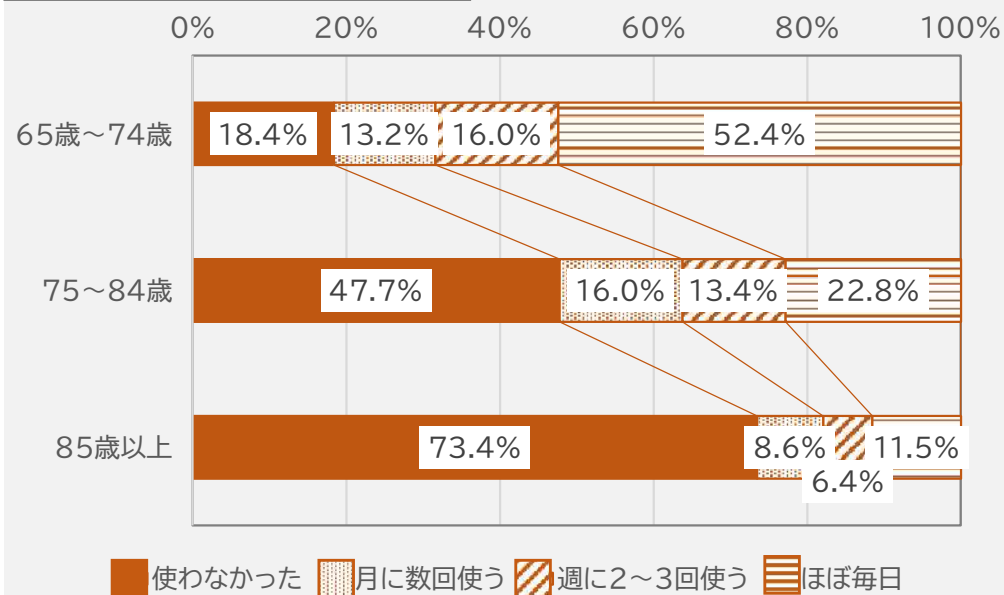
⑦ICTの活用

過去1年間のインターネットやメールの利用について、40～64歳調査においては「ほぼ毎日」と答えた人が86.3%と多い。

しかし、65歳以上調査では、「使わなかった」と答えた人が45.9%、認定者調査では66.2%であり、インターネット等を使わない人が一定数いる。また、65歳以上調査において年齢別のICT活用状況を見ると、年齢が上がるにつれ、「使わなかった」人の割合が増加している。



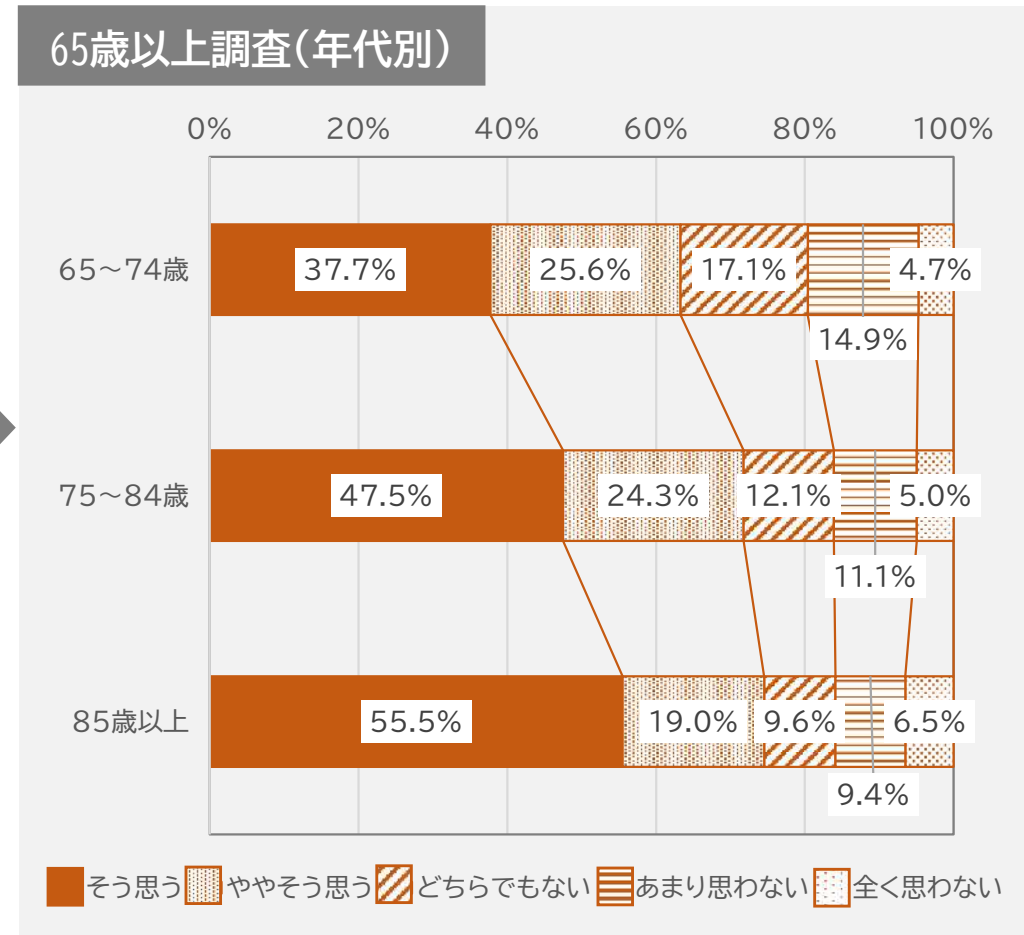
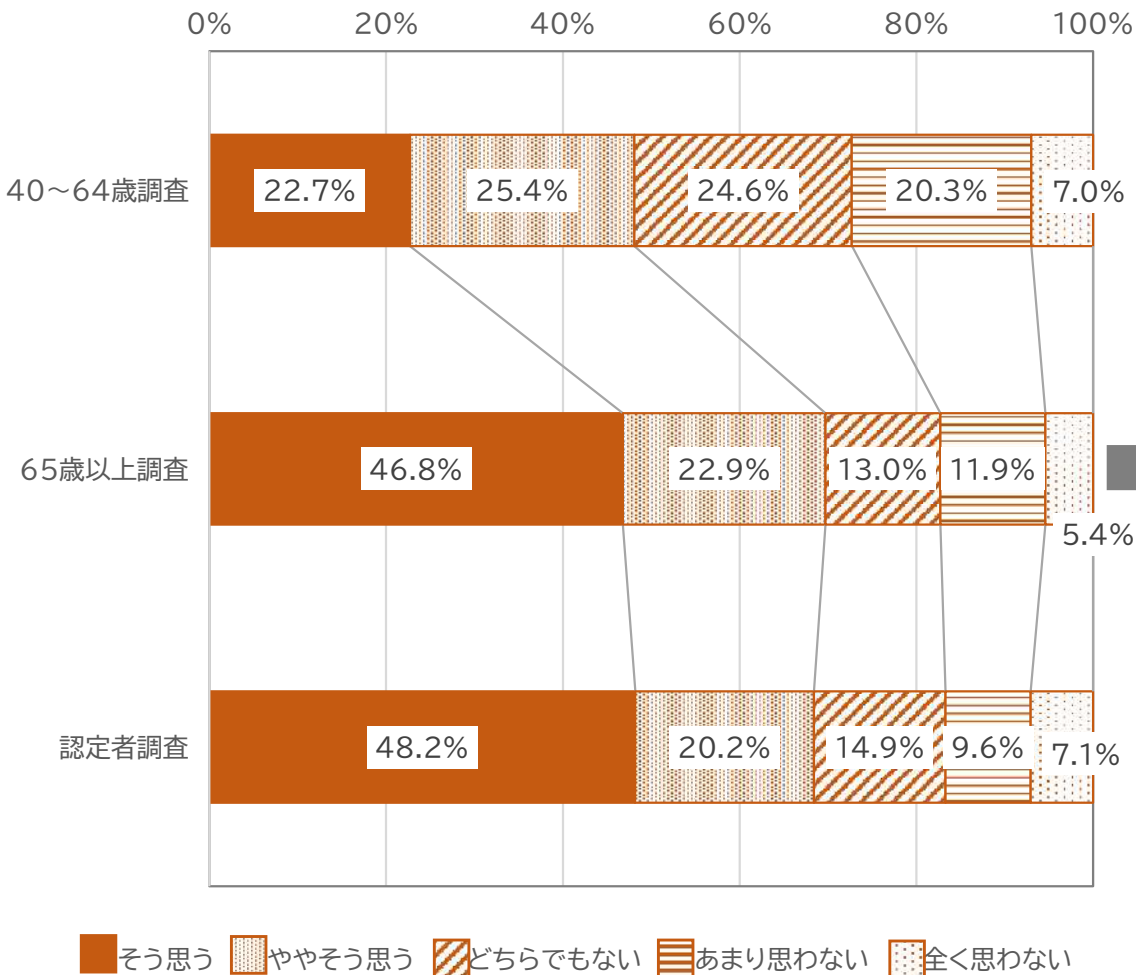
65歳以上調査(年代別)



■市が設定した独自項目

⑧認知症の方への支援（自宅での生活の継続）

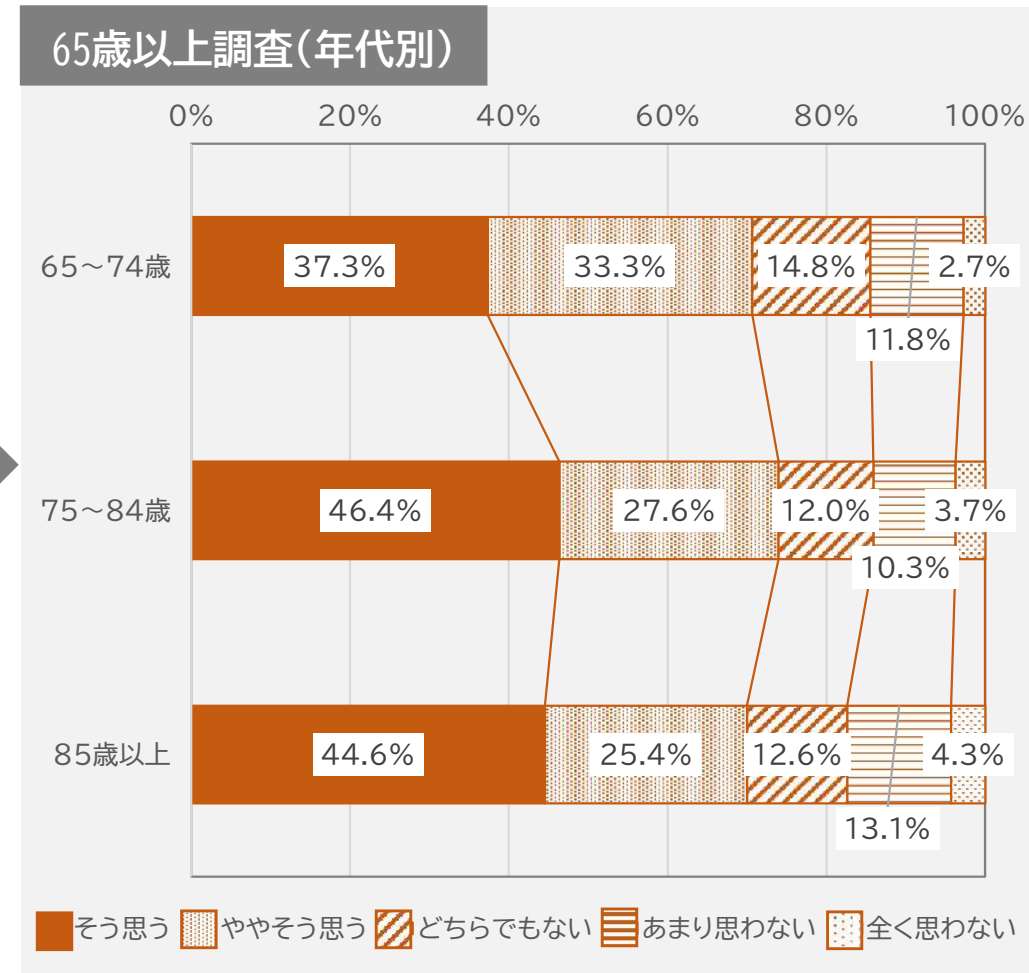
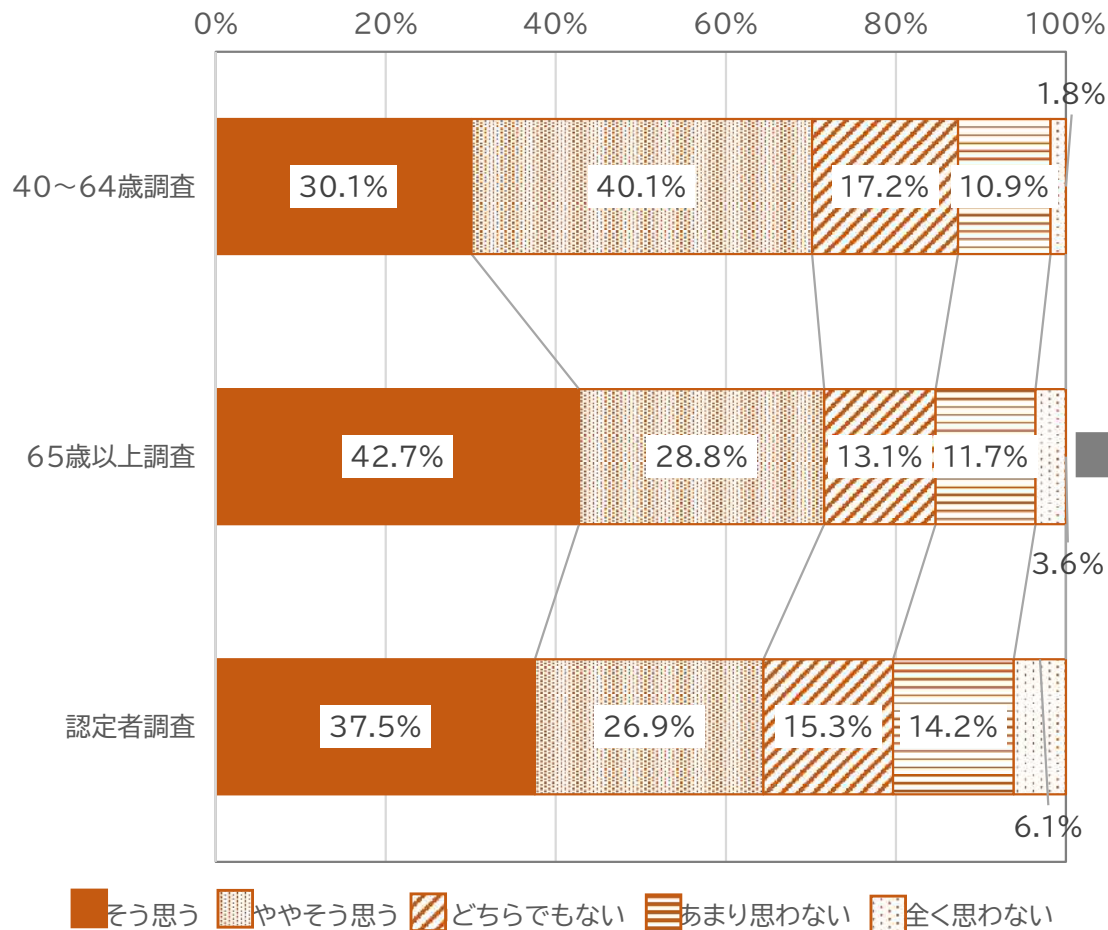
自分が認知症になっても協力を得ながら、自宅での生活を続けたいかについては、「そう思う」「やや思う」と答えた人は、40～64歳調査48.1%、65歳以上調査69.7%、認定者調査68.4%であった。



■市が設定した独自項目

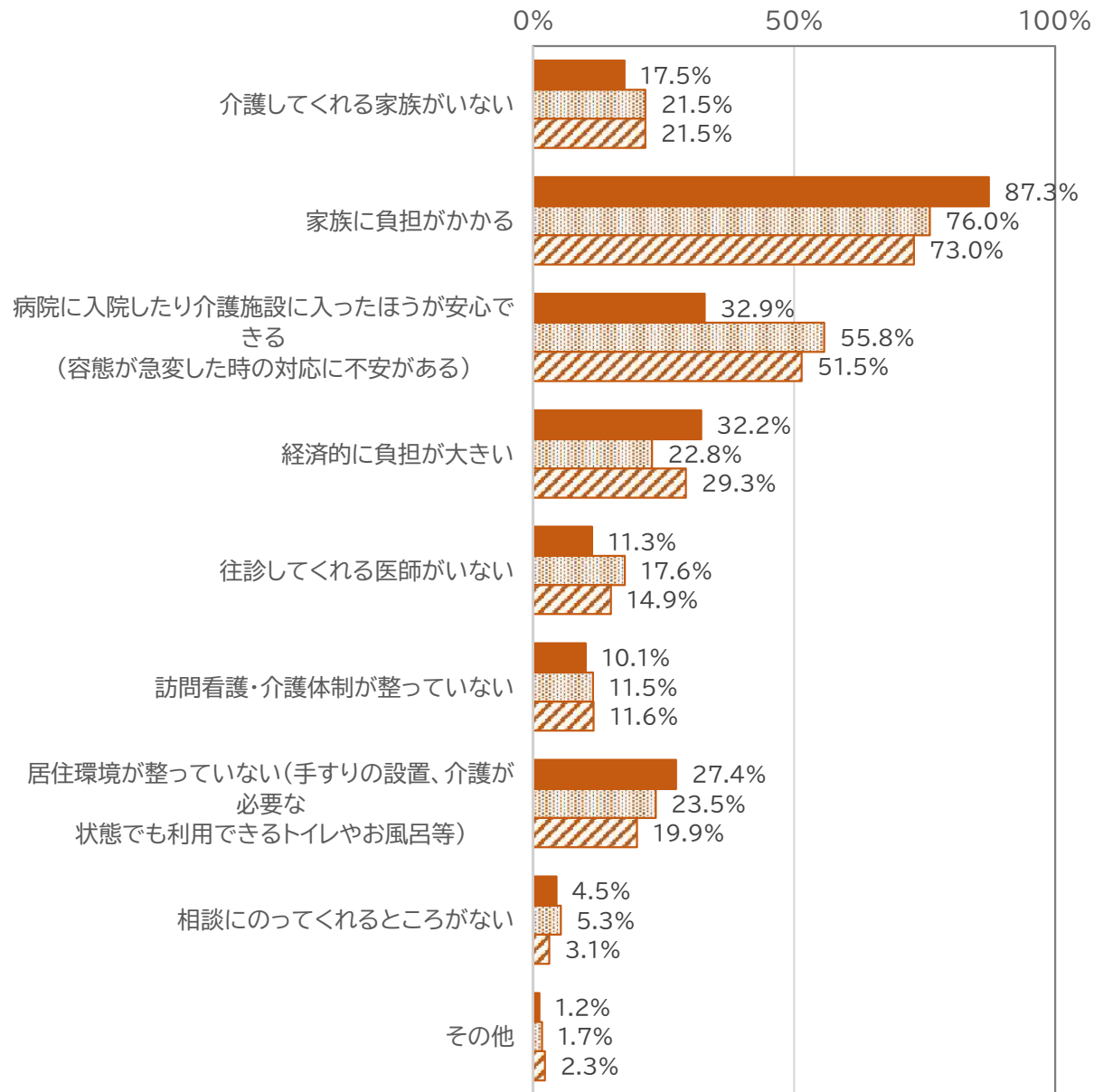
⑧認知症の方への支援（近所・知人への理解）

家族が認知症になったら、協力を得るために近所や知人などに知ってほしいかの問いで、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人は、40～64歳調査70.2%、65歳以上調査71.5%、認定者調査64.4%であった。



■市が設定した独自項目

⑨在宅医療について



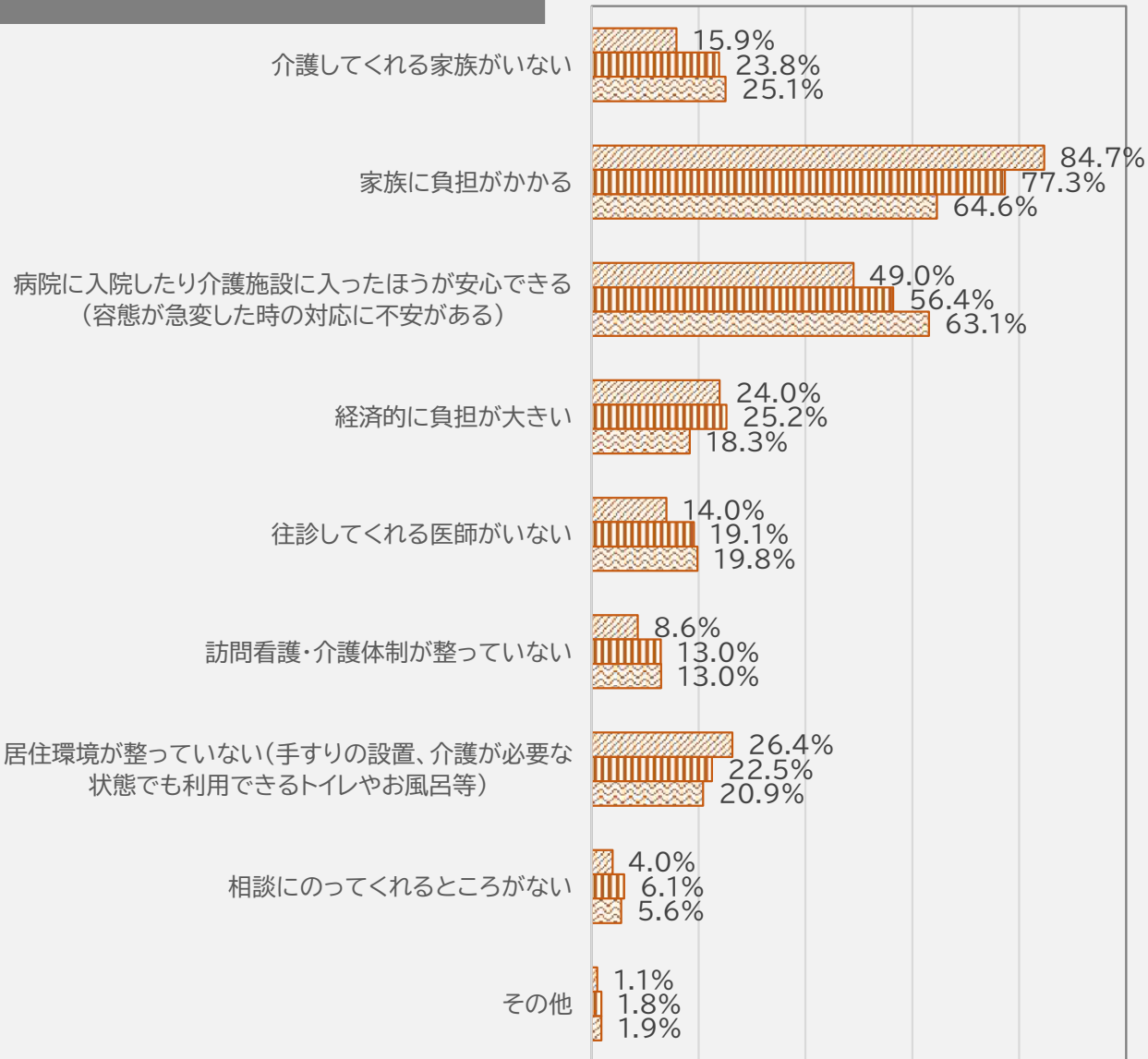
自宅で最期を迎えることが困難である理由として「家族に負担がかかる」「病院に入院したり介護施設に入ったほうが安心できる」という理由が、40～64歳調査・65歳以上調査・認定者調査すべてにおいて多かった。

■市が設定した独自項目

⑨在宅医療について

65歳以上調査(年代別)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



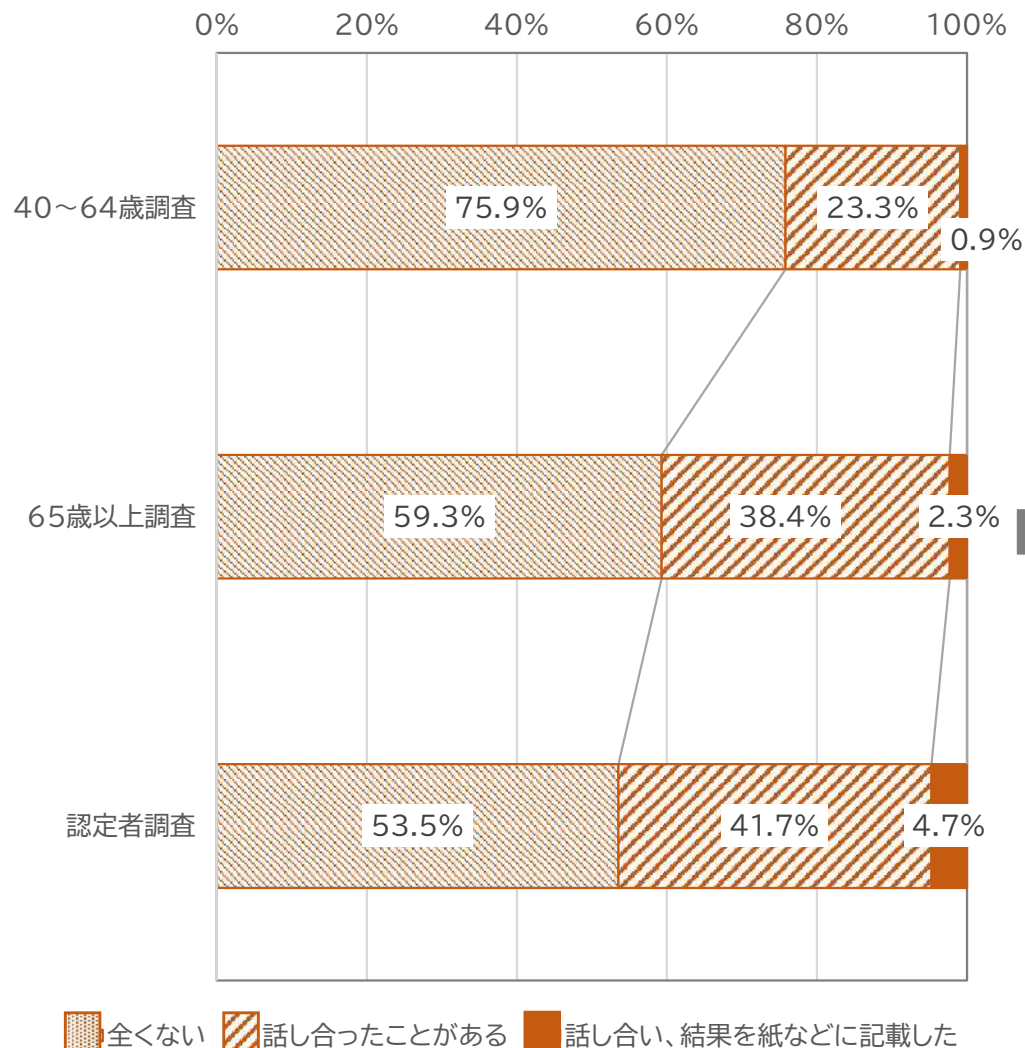
65～74歳 75～84歳 85歳以上

65歳以上調査において、自宅で最期を迎えることが困難である理由を年代別で見ると、「家族に負担がかかる」と回答した割合は65歳～74歳が一番高く、「病院に入院したり介護施設に入ったほうが安心できる」と回答した割合は85歳以上が一番高かった。

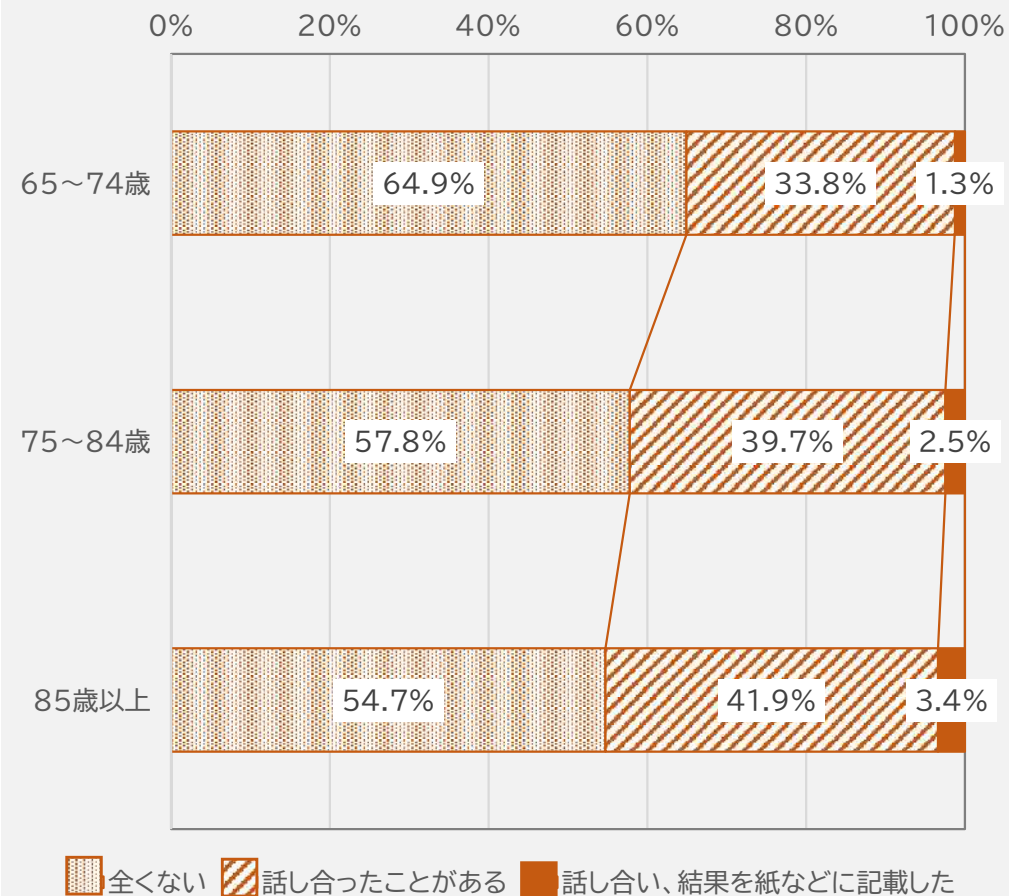
■市が設定した独自項目

⑩ 人生会議について

人生会議の取組について、「全くない」と答えた方は、40～64歳調査75.9%、65歳以上調査59.3%、認定者調査53.5%であり、全調査において、半数以上が取り組んでいない現状である。



65歳以上調査(年代別)

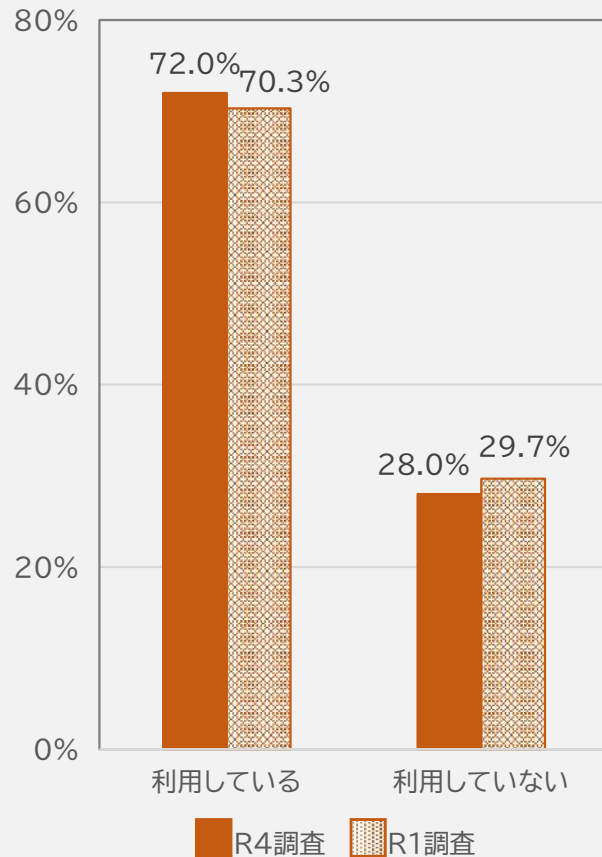


■市が設定した独自項目

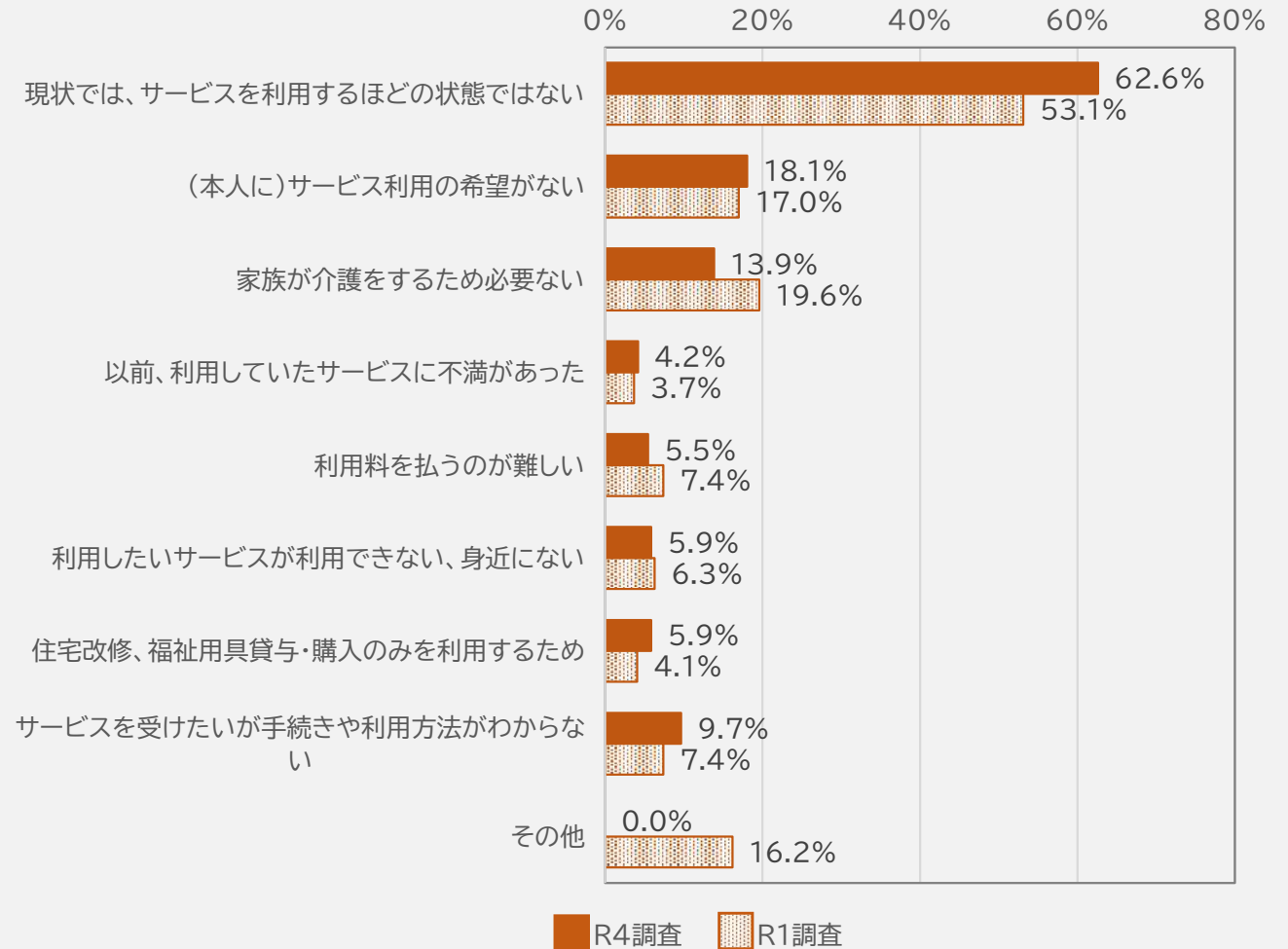
⑪介護サービスについて

認定者調査において、サービス利用していない人は、26.5%おり、利用していない理由としては、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」に次いで、「(本人に)サービス利用の希望がない」と答えた人が多い。

介護サービスの利用状況



介護サービスを利用していない理由



(3) 在宅介護実態調査における調査結果の抽出

■市が独自で設定した項目

参考

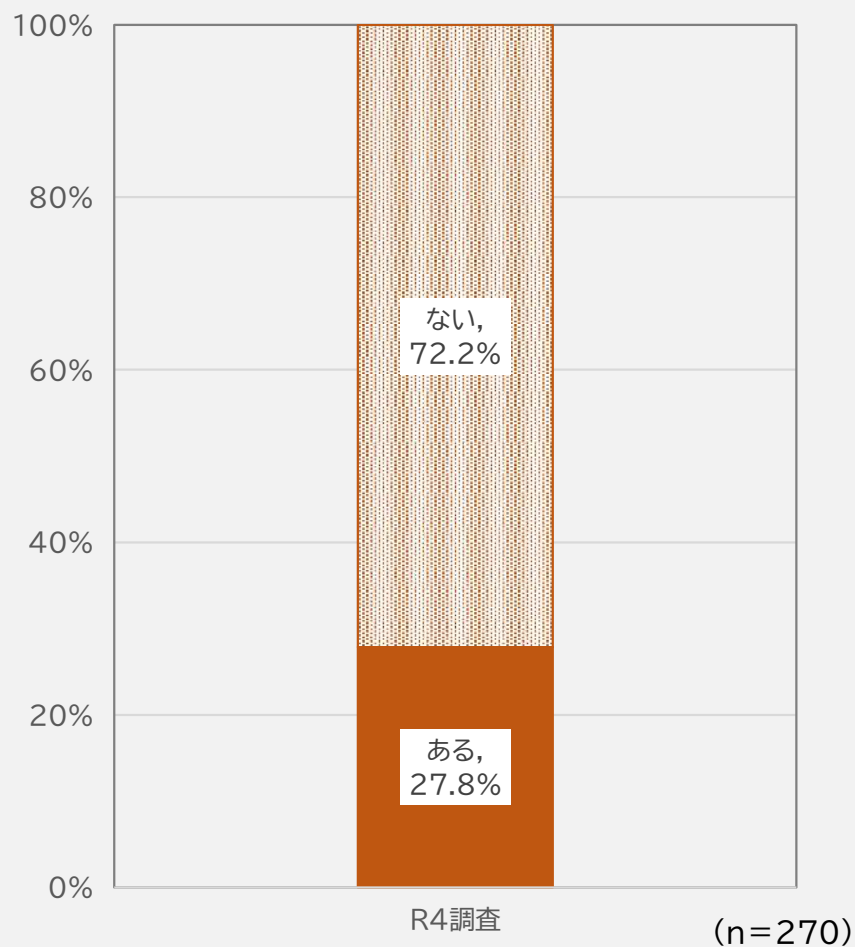
調査対象者：在宅で生活している要介護（要支援）認定者

■市が設定した独自項目

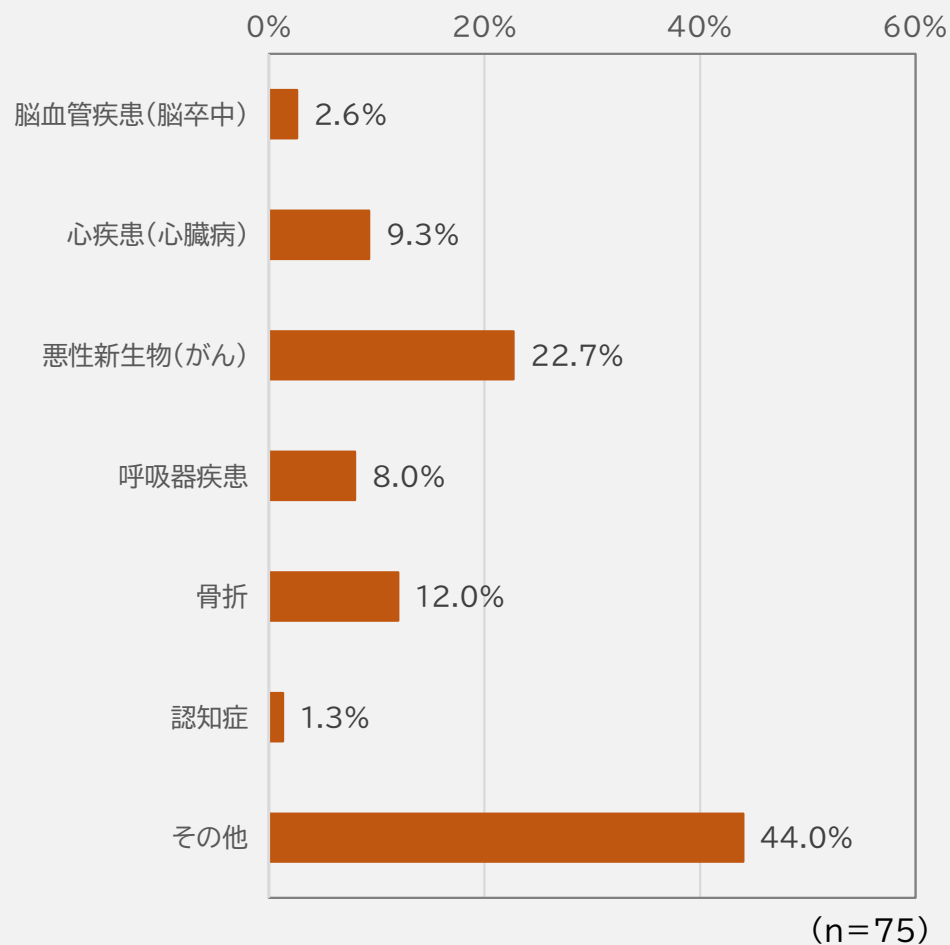
①再発した疾病及び服薬管理状況

区分変更申請者で、前回から今回の認定調査期間の間に入院したことがある人の割合は、27.8%であった。また、その入院のきっかけとなった病気は、そのほか44.0%が一番割合が多いが、コロナウイルス感染症、脱水、熱中症、誤嚥性肺炎、転倒など様々な原因で入院となっている。

前回から今回の認定調査期間中の入院歴



入院のきっかけとなった主な病気

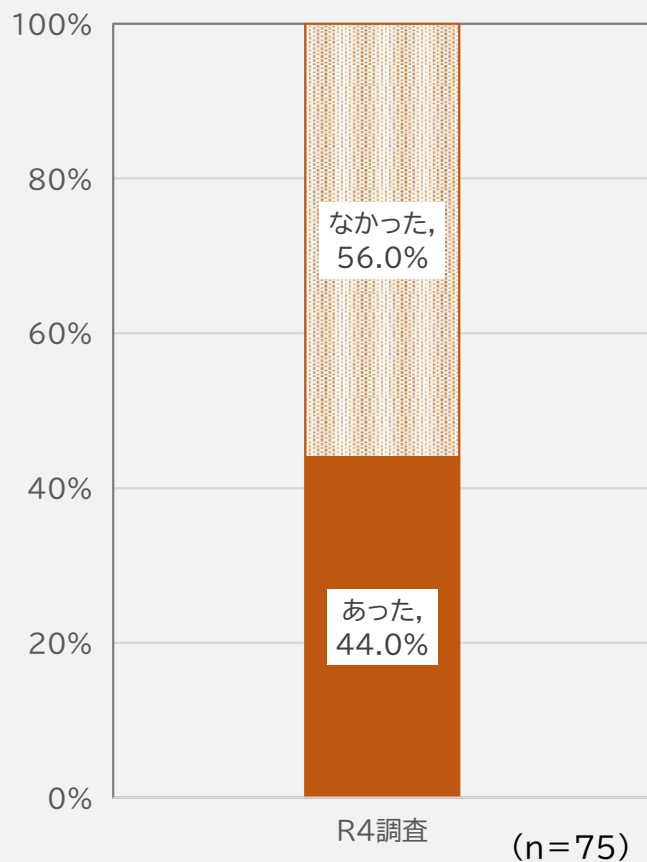


■市が設定した独自項目

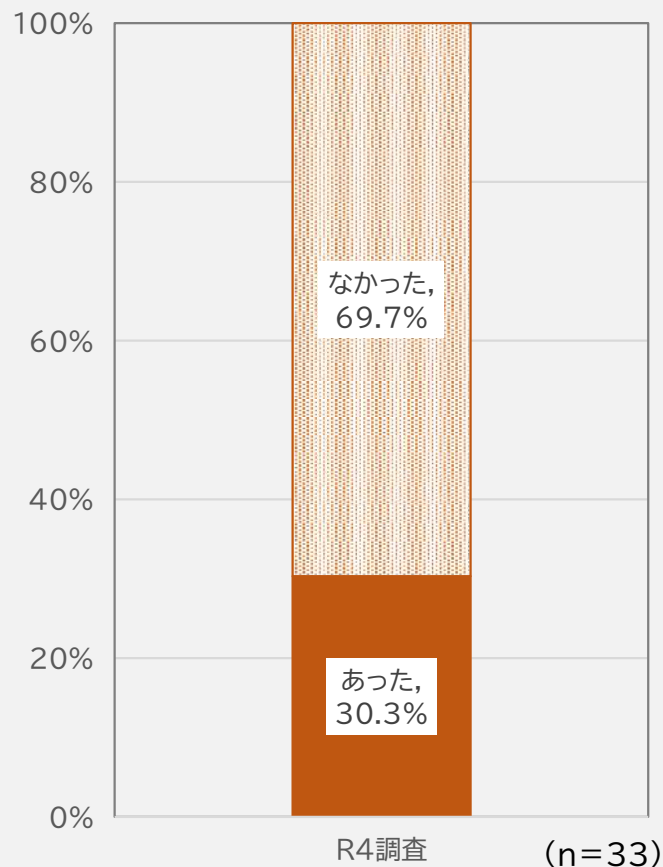
①再発した疾病及び服薬管理状況

服薬管理の状況については、入院のきっかけとなった病気に関する服薬があった人の割合は44.0%で、入院前に薬の飲み忘れがあった人の割合は30.3%であった。

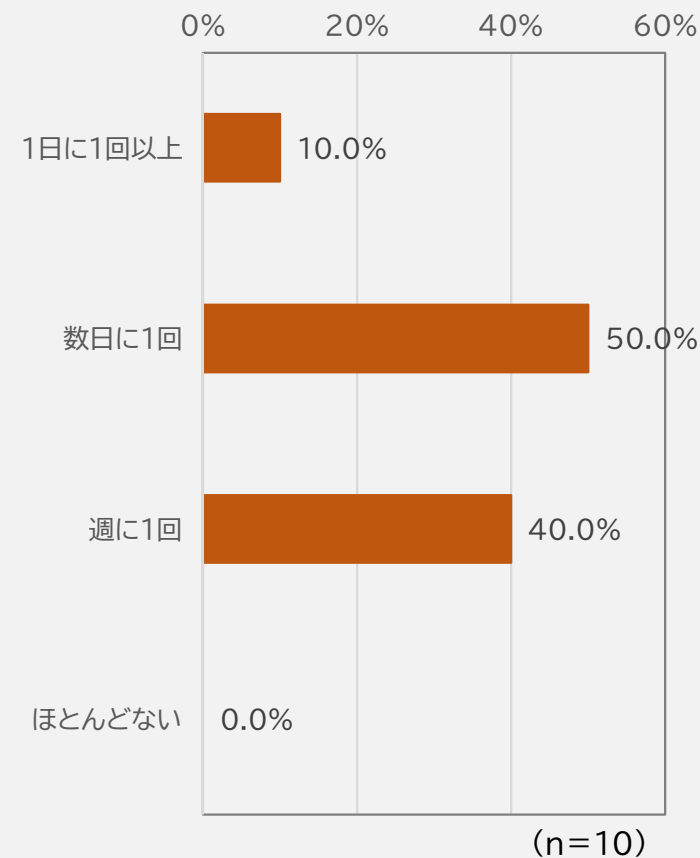
入院のきっかけとなった 主な病気に関する服薬状況



薬の飲み忘れの状況



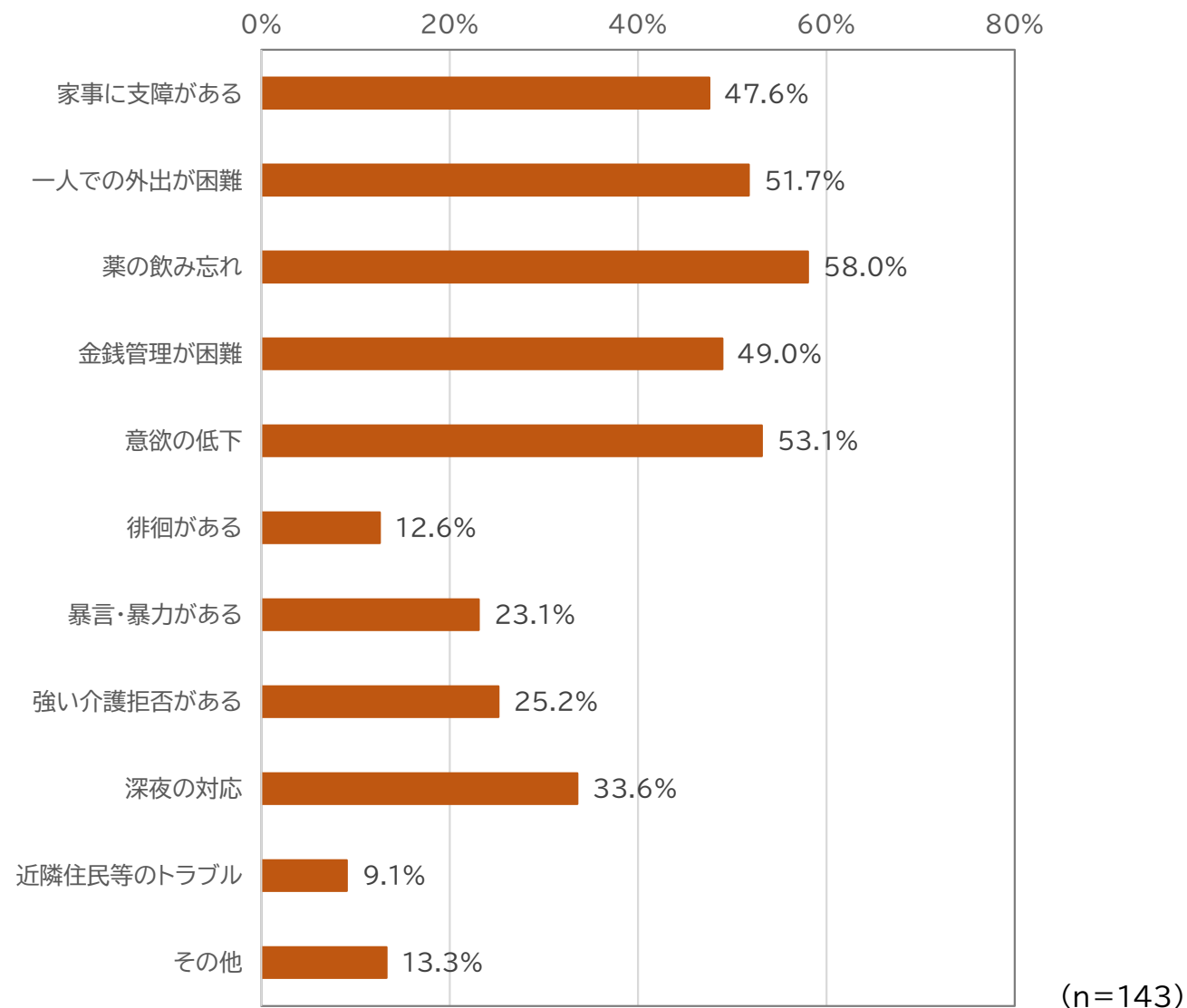
薬の飲み忘れの頻度



■市が設定した独自項目

②認知症状への対応（主な介護者が不安に感じる介護等）

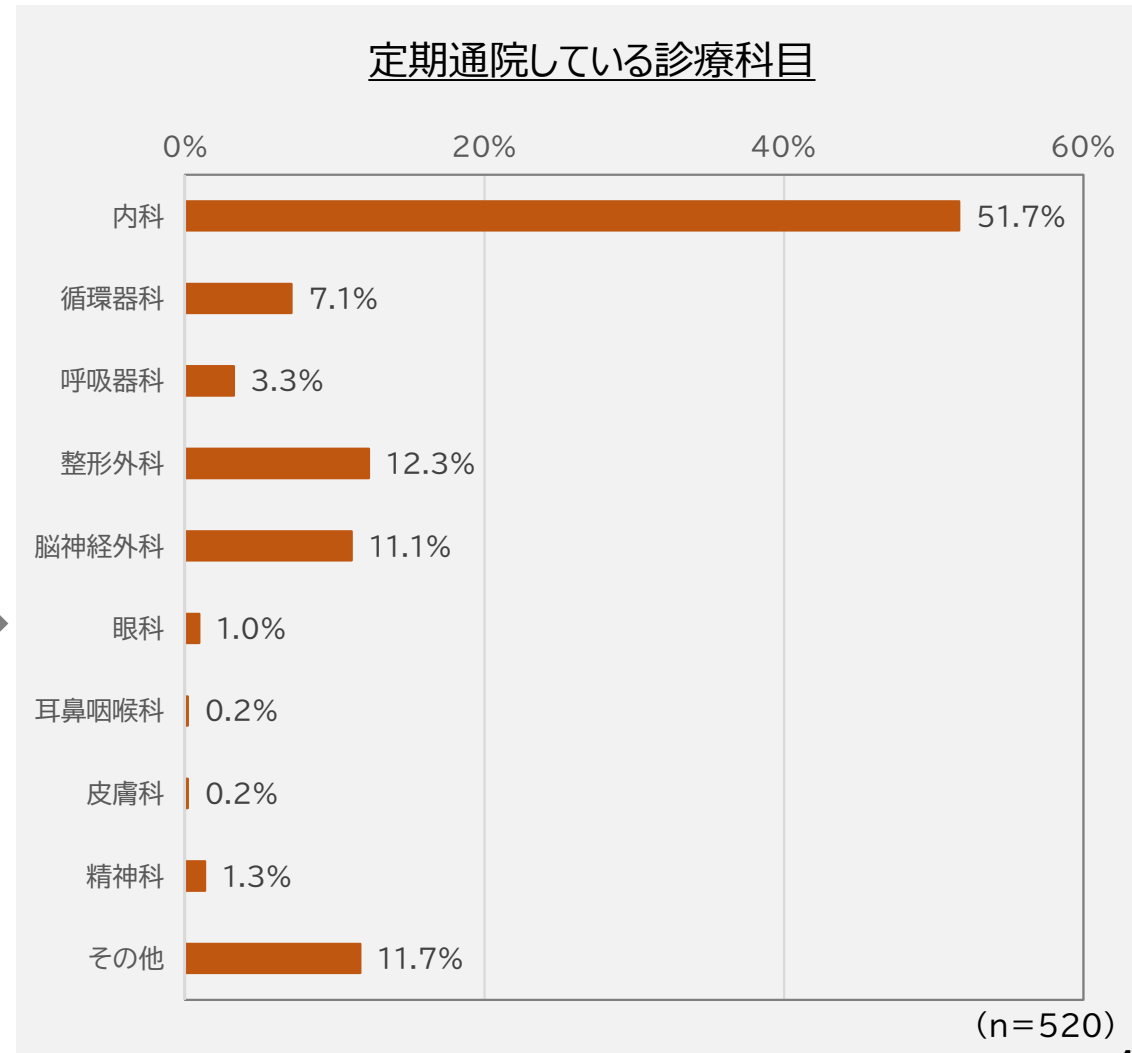
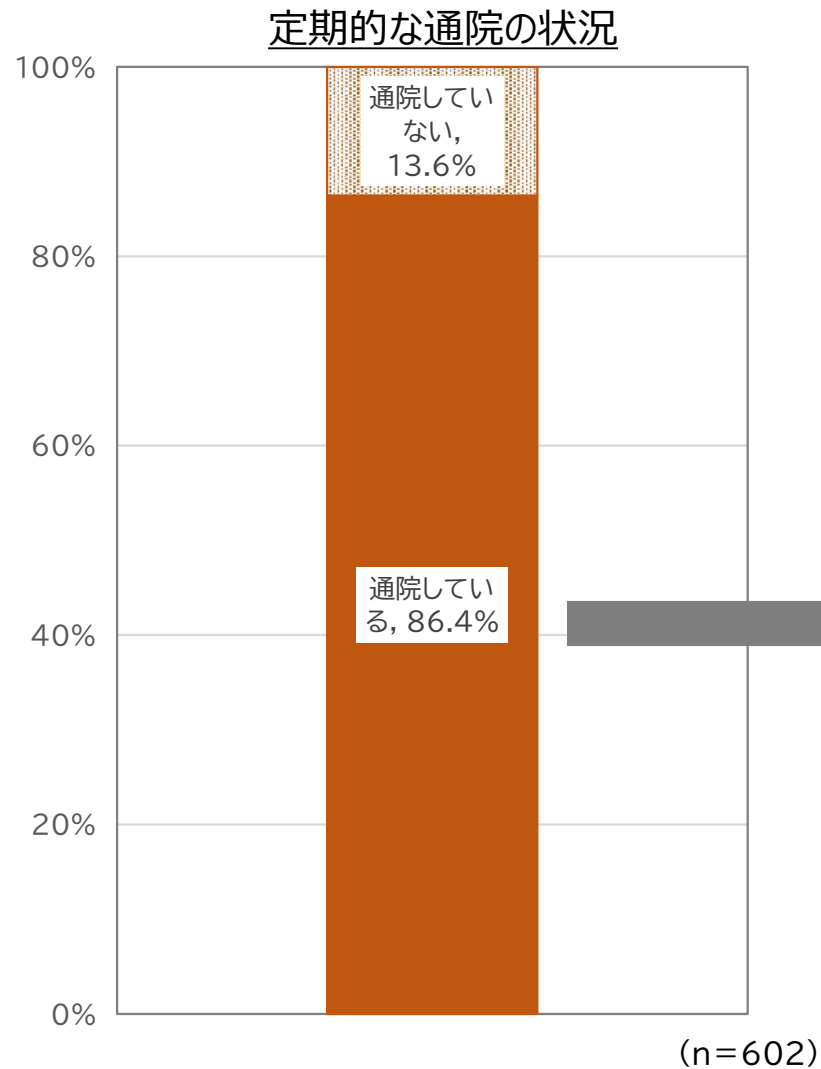
主な介護者の人が不安に感じる介護等で「認知症状への対応」と答えた人が、その理由となる具体的な症状として「薬の飲み忘れ」「意欲の低下」「一人での外出が困難」が上位であった。



■市が設定した独自項目

③外出の付き添い・送迎（定期通院の状況）

定期的に通院している人の割合は86.4%であり、通院している診療科目としては、内科が51.7%と一番多かった。

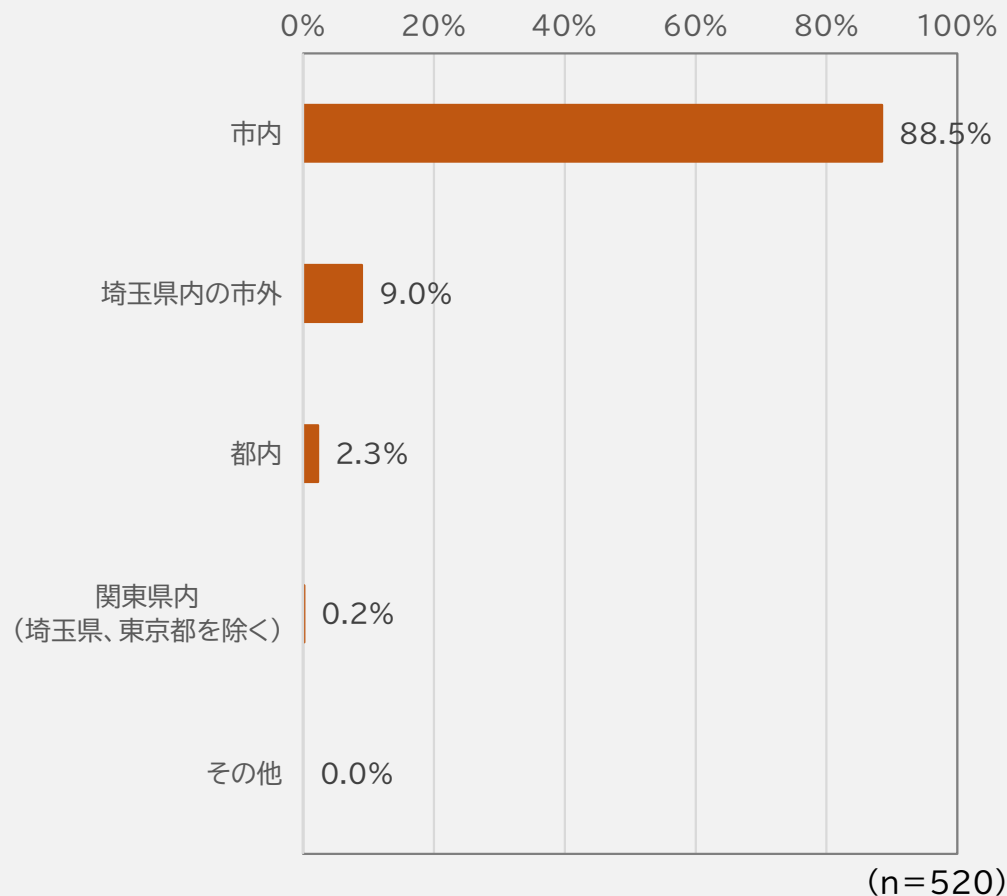


■市が設定した独自項目

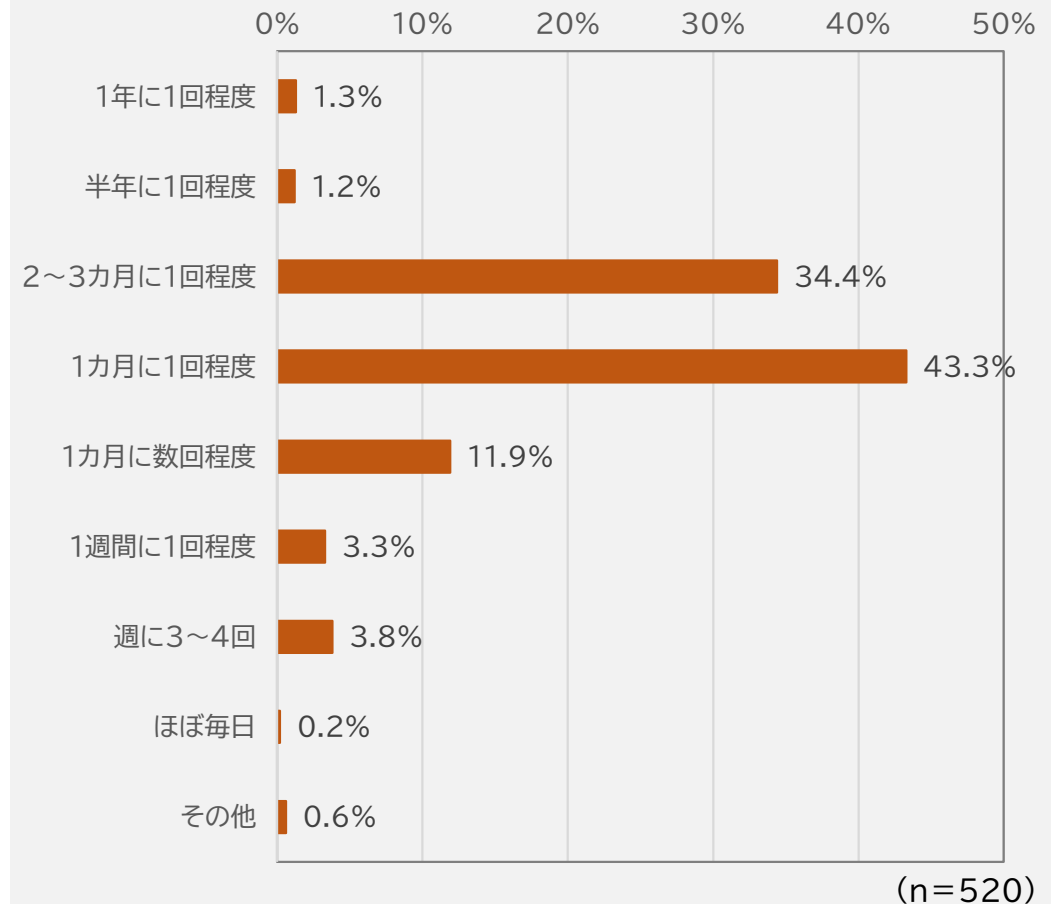
③外出の付き添い・送迎（医療機関の所在地、通院頻度）

定期的に通院している医療機関の所在地は、市内が88.5%と多かった。また、定期通院の頻度は、「1か月に1回程度」が43.4%と多く、その次に「2～3か月に1回程度」が34.4%であった。

定期通院している医療機関の所在地



定期通院の頻度

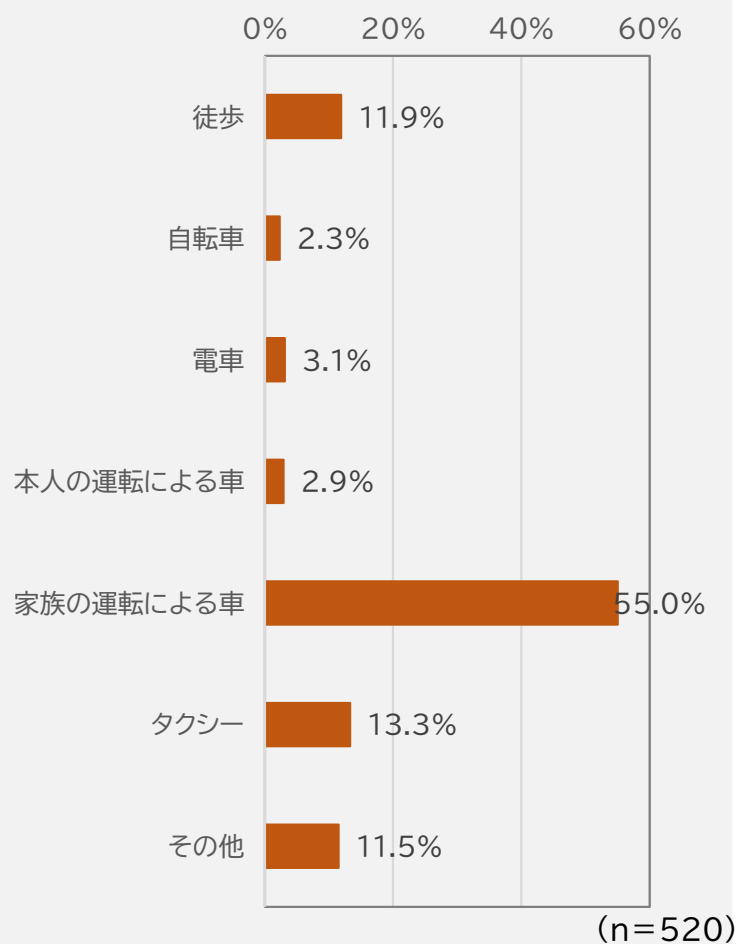


■市が設定した独自項目

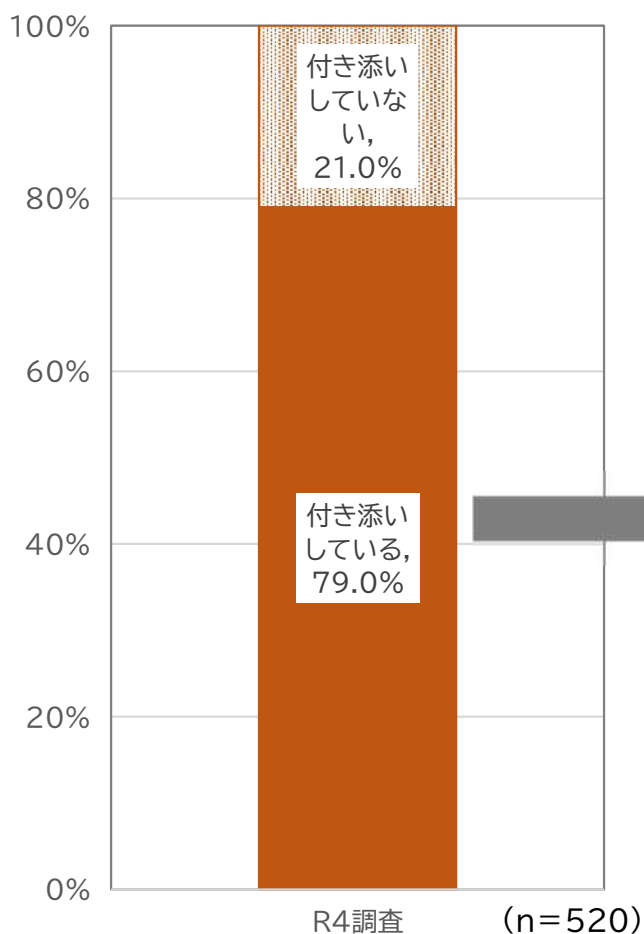
③外出の付き添い・送迎（通院方法、付き添い状況）

定期通院している医療機関までの通院方法は、「家族の運転による車」が半数以上であった。また、通院時の家族の付き添い状況は、約8割が付き添いをしており、付き添っているのは、「子」が57.2%、「配偶者」が31.6%であった。

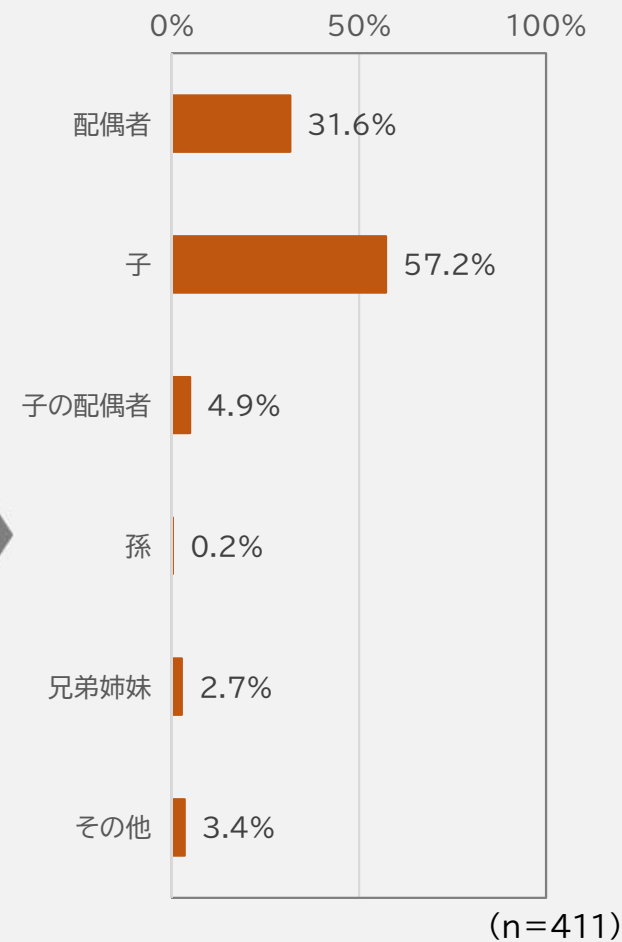
医療機関までの通院方法



通院時の家族の付き添い状況



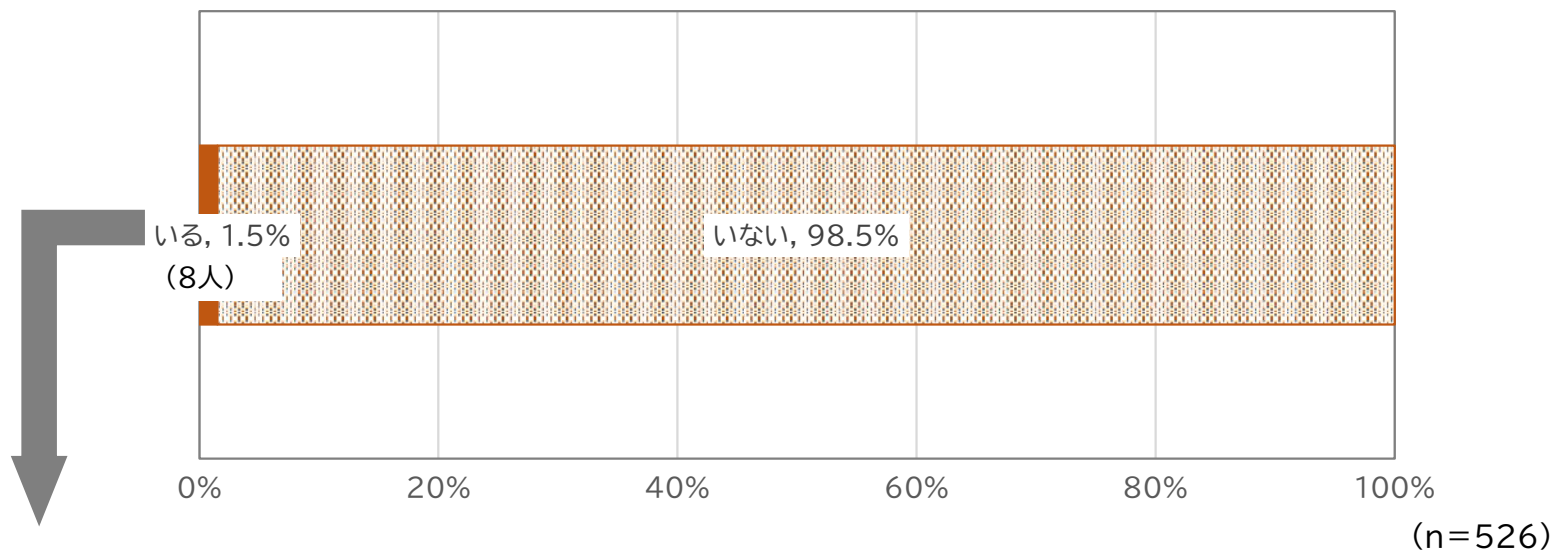
付き添いしている者



■市が設定した独自項目

④ヤングケアラーの状況

介護者の方の中にヤングケアラーがいると回答した人は、8人であった。



把握したヤングケアラーは、10人であった。（複数回答あり）

